

2014 秋田大学医学部附属病院

診療科案内



Akita University Hospital



I · N · D · E · X

医学部附属病院長ごあいさつ	1	● 外来診療日一覧	4
理念・目標	2	● 組織図	6

診療科のご案内

消化器内科／神経内科	7	小児外科	15	耳鼻咽喉科	23
循環器内科／呼吸器内科	8	小児科	16	放射線診断科／放射線治療科	24
血液内科／腎臓内科／リウマチ科	9	産科婦人科	17	麻酔科	25
糖尿病・内分泌内科／老年内科	10	精神科	18	リハビリテーション科／リハビリテーション部	26
消化器外科	11	整形外科	19	腫瘍内科	27
呼吸器外科／食道外科／乳腺・内分泌外科	12	皮膚科／形成外科	20	救急科	28
心臓血管外科	13	泌尿器科	21	病理診断科／病理部	29
脳神経外科	14	眼科	22	歯科口腔外科	30

中央診療施設等のご案内

中央検査部	31	周産母子センター	41	化学療法部	51
中央手術部	32	総合診療部	42	緩和ケアセンター	52
中央放射線部	33	治験管理センター	43	心療センター	53
中央材料部	34	臨床工学センター	44	肝疾患相談センター	54
集中治療部	35	移植検査センター	45	栄養管理部	55
救急部	36	総合臨床教育研修センター	46	腎疾患先端医療センター	56
輸血部	37	内視鏡・超音波センター	47	医療安全管理部	57
医療情報部	38	遺伝子医療部	48	感染制御部	58
血液浄化療法部	39	腫瘍情報センター	49	薬剤部	59
中央病歴部	40	相談支援センター・がん相談支援センター	50	看護部	60

● 病院駐車場・交通機関案内	61
----------------	----

医学部附属病院長 ごあいさつ

2014年度版の秋田大学医学部附属病院の診療科案内が完成しましたので、病院を代表してご挨拶を申し上げます。

秋田大学医学部附属病院は昭和45年の開設以来、県内唯一の特定機能病院として、良質な高度医療の提供と優れた医療人の育成、世界に発信する研究を行ってまいりました。

2007年には都道府県がん診療連携拠点病院に、2012年には、秋田県からのご支援によりシミュレーション教育センター、2013年にはあきた医師総合支援センターが設置され、秋田県民医療の中核・拠点病院としての機能と教育・研究機能もますます強化されてきました。また2009年の新病棟竣工後は、旧病棟や外来棟の再開発も着々と進めており、2015年にはこの再開発事業も完了し、再開発によって、安全で高度な医療を提供できるばかりでなく、患者さんやご家族にはより快適な入院生活や外来受診を行えるような環境が整備されます。

附属病院設備が充実されていく中で、「診療」内容では、臓器移植や骨髄移植、ロボット支援手術に



秋田大学医学部附属病院長

羽 渕 友 則

Tomonori Habuchi

代表される低侵襲手術、難治性がんや疾患に対する集学的治療、PET-CTをはじめとする高度画像診断技術などを駆使して、高度で良質な医療を提供します。また「教育」では、総合臨床教育研修センターを軸にして医学教育に長けたスタッフを登用し、優秀で人間性のあふれた医療人の養成を目指します。国内最大級のシミュレーション教育センターが、「教育」において大きな力となります。「研究」では、医学系研究科と協力し、先進医療の推進とともに新規治療薬や医理工連携による医療機器の開発、副作用や合併症の少ない薬剤投与方法や手術法の開発を行います。

秋田大学医学部附属病院はこれからも「診療」「教育」「研究」の三つの責務を果たしながら、皆さまに満足していただける良質な医療を提供できるよう、職員一同が一丸となって努力精進してまいります。この診療科案内が私ども附属病院のご紹介として、皆さまのご参考になれば幸いです。





秋田大学医学部附属病院は、
次の理念及びそれを達成するための
10の目標を定めております。
理念・目標を常に心に、
これからも秋田県民のための
良質で高度な医療の提供、
優れた医療人の養成、
そして世界に誇れる最先端の研究を、
病院スタッフ一同で推し進めてまいります。



理

念

患者さんにとって安心できる医療環境のもとで、良質で高度な医療を適切に提供することをおして、優れた医療人の育成と医学研究の進歩のため積極的に役割を果たすとともに、地域医療・保健活動の中心としての役割を担い、さらに国際的にも貢献できるよう努める。

目

標

1. 教育病院として臨床実習・研修の充実を図り、医師のみならず全ての分野に優れた医療人を、地域の医療機関との連携を図りながら育成する。
2. 患者本位の立場に立ち、患者さんとの信頼関係のもとに医療サービスの向上を図り、患者さんに選ばれる病院を目指す。
3. 地域の保健・医療・福祉の状況を総合的に把握し、その向上のために地域医療機関と連携し、一般医療のみならず難病への医療や高度先端医療の提供に努める。
4. 地域的に問題とされる疾患や難治性疾患の病因解明や新しい診断・治療方法の開発、既存の診断・治療方法の科学性、有効性の検証等について研究し、国際的レベルの、独創的研究成果をあげる。
5. 医学・医療の進展に対応して、新しい知識や技術の有用性を適切に判断できるように生涯にわたって学習を継続し、また、広く学際領域の諸科学にも関心をもつよう努力する。
6. 国際情勢にも関心をもち、高度な医学・医療の知識や技術の導入のみならず、開発途上国に対する国際医療協力などをも含めて国際的に活躍できるよう努力する。
7. 有限な資源を有効に利用することの重要性を認識し、全職員の病院運営への意識を高め、かつ、職員の創意工夫を取り入れて効率的な管理運営ができるように努力する。
8. 診療情報を積極的に患者さんに提供し、医療提供者と患者さんが診療情報を共有することによって、両者の良好な関係を築き、より質の高い開かれた医療を目指す。
9. 自己点検・評価さらには第三者機関による評価を踏まえて、常に教育、研究、診療の向上や病院の管理運営の改善に努める。
10. 常に自分自身を向上させ、患者さんの信頼を得、明るい、やりがいのある職場の構築に努める。

外来診療日一覧

※A:新患・再来とも8:30～10:30(予約除く) ※B:13:30～16:00

診療受付曜日と受付時間

目的の外来が診療を行っているかどうか不明な場合は、電話で診療科にご確認のうえご来院ください。

平成26年9月現在

診療科	月		火		水		木		金		受付時間
	新患	再来	新患	再来	新患	再来	新患	再来	新患	再来	
第一内科 外来受付 018-884-6357											
消化器内科 (消化管)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
(肝・胆・膵)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
神経内科	○	○	○	○	—	—	○	○	○	○	
第二内科 外来受付 018-884-6358											
循環器内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
呼吸器内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第三内科 外来受付 018-884-6359											
血液内科	○	○	—	○	—	○	○	○	—	○	
腎臓内科	○	○	—	○	—	○	○	○	—	○	
リウマチ内科	○	○	—	○	—	○	○	○	—	○	
老年科 外来受付 018-884-6360											
糖尿病・内分泌内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
老年内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
消化器外科 外来受付 018-884-6364											
消化器外科	—	○	○	○	—	○	—	○	○	○	
第二外科 外来受付 018-884-6363											
呼吸器外科	—	—	○ (午後、予約のみ)	○ (午前)	—	—	—	○	—	—	
食道外科	—	—	—	—	—	—	○	○	—	—	
乳腺・内分泌外科	○	○	—	—	—	—	—	—	○	○	
心臓血管外科 外来受付 018-884-6362											
心臓血管外科	—	○	○	○	—	○	—	○	—	○	
脳神経外科 外来受付 018-884-6361											
脳神経外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
小児外科 外来受付 018-884-6365											
小児外科	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	
小児科 外来受付 018-884-6366											
小児科	○ (専門外来は予約のみ)	○	○ (専門外来は予約のみ)	○	○ (専門外来は予約のみ)	○	○ (専門外来は予約のみ)	○	○ (専門外来は予約のみ)	○	
産科 外来受付 018-884-6368						婦人科 外来受付 018-884-6367					
(産科)	○	○	○	○	○	○	—	—	—	○	
産科婦人科(婦人科腫瘍)	○	○	—	○	○	—	○	○	—	○	
(生殖内分泌)	—	○	○	○	○	○	○	—	—	○	
精神科 外来受付 018-884-6370											
精神科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
心療センター 外来受付 018-884-6369											
心療センター	○	○	○	○	—	—	○	○	○	○	

※A

※A:新患・再来とも8:30～10:30(予約除く) ※B:13:30～16:00

診療受付曜日と受付時間

目的の外来が診療を行っているかどうか不明な場合は、電話で診療科にご確認のうえご来院ください。

平成26年9月現在

診療科	月		火		水		木		金		受付時間
	新患	再来	新患	再来	新患	再来	新患	再来	新患	再来	
整形外科 外来受付 018-884-6371											
整形外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
皮膚科 外来受付 018-884-6374											
皮膚科 (皮膚科)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
(形成外科)	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	
泌尿器科 外来受付 018-884-6375											
泌尿器科(血液浄化療法部)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
眼科 外来受付 018-884-6376											
眼科	○	○	—	○ (予約のみ)	○	○	—	○ (予約のみ)	○	○	
耳鼻咽喉科 外来受付 018-884-6377											
耳鼻咽喉科	—	○ (予約のみ)	○	○	—	○ (予約のみ)	○	○	○	○	
放射線科 外来受付 018-884-6378											
放射線診断科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
(アイソトープ治療)	○ (午前、予約のみ)	○ (午前、予約のみ)	—	—	—	—	○ (午後、予約のみ)	○ (午後、予約のみ)	—	—	
放射線治療科	○	○ (予約のみ)	—	—	○	○ (予約のみ)	○	○ (予約のみ)	—	○ (予約のみ)	※A
麻酔科 外来受付 018-884-6379											
麻酔科(疼痛外来)	—	—	—	—	○	○	○	○	—	—	
リハビリテーション科 外来受付 018-884-6372											
リハビリテーション科	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	
腫瘍内科	—	○	○ (午後、完全予約制)	○	○ (午後、完全予約制)	○	—	○	—	○	
病理診断科	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	
歯科口腔外科 外来受付 018-884-6380											
歯科口腔外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
総合診療部	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
相談支援センター(緩和ケア相談窓口) 018-884-6283											
緩和ケア外来	○ (予約のみ)	○ (予約のみ)	○ (予約のみ)	○ (予約のみ)	○ (予約のみ)	○ (予約のみ)	○ (予約のみ)	○ (予約のみ)	○ (予約のみ)	—	—
漢方外来	—	—	○ (予約のみ)	○ (予約のみ)	—	—	—	—	—	—	※B

外来診療日一覧

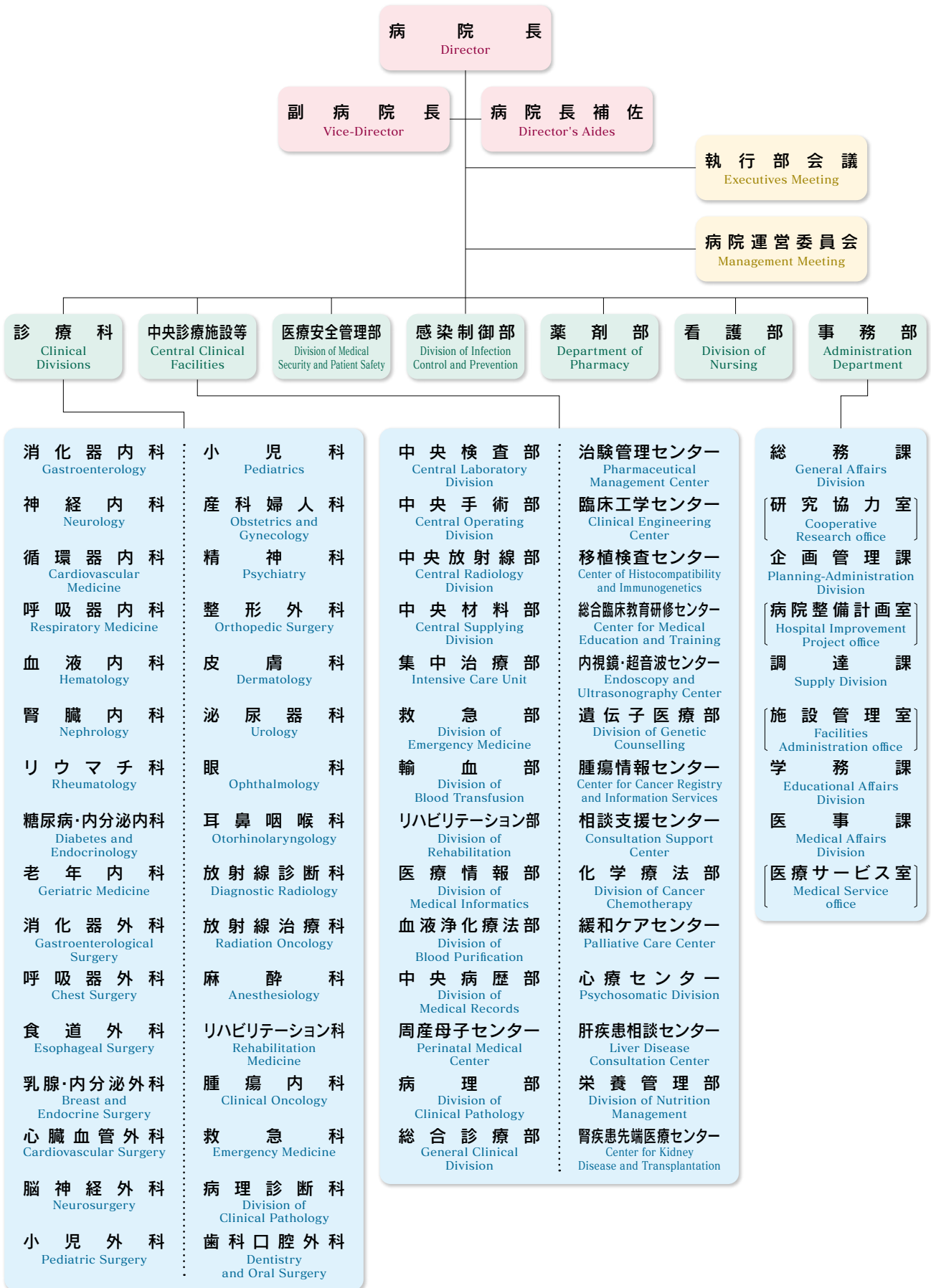
●休診日…土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)

●診療開始時間は、各診療科の受付に表示してあります。なお、手術及び回診等により変更される場合があります。

●再来の方には、時間予約制を採用しております。

●都合により休診となる場合がありますので、お問い合わせください。

組織図



消化器内科／神経内科

Gastroenterology / Neurology

●連絡先…018-884-6357 018-884-6360 018-884-6104
(消化器内科外来) (神経内科外来) (医局)

●ホームページ…① http://www.hos.akita-u.ac.jp/csd/internal_medicine_department_1.html
② <http://www.med.akita-u.ac.jp/~naika1/index.html>

スタッフ構成
教授 — 1名
准教授 — 2名
講師 — 2名
医学部講師 — 1名
助教 — 4名
医員 — 14名
大学院生 — 5名



診療科長
教授 大西 洋英
Hirohide Ohnishi



副科長
准教授 後藤 隆
Takashi Goto



外来医長
准教授 神 万里夫
Mario Jin



講師 眞嶋 浩聡
Hiroshiro Mashima



病棟医長
講師 松橋 保
Tamotsu Matsuhashi



講師(医学部講師) 菅原 正伯
Masashi Sugawara

診療内容・特色

現在、当教室における消化器内科学分野の臨床では咽頭、食道、胃、大腸の早期がんの内視鏡下粘膜下層剥離術を用いた治療を積極的に行っております。また肝臓がんの治療は経皮的ラジオ波焼灼療法と動脈塞栓療法を組み合わせで行っており、共に良好な治療成績を上げその技量は日本でもトップレベルであると自負しております。さらに、我が国でも最近増加傾向に有りますクローン病、潰瘍性大腸炎などの難治性炎症性腸疾患に対しても、エビデンスに基づいた治療を行いつつ、患者さんの親睦会と協力しながらQOLの向上を目指した組織的な治療を行っております。

神経内科の臨床では、中枢神経感染症、脳血管障害、痴呆性疾患、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、運動ニューロン病、神経免疫疾患など多岐にわたる疾患の外来診療・救急も含めた入院診療を行っております。県内各地の病院で外来診療を行い神経難病の診断・治療・療養支援を行っており、治療困難例を積極的に受け入れています。外来では、眼瞼けいれん・片側顔面けいれん・痙攣性斜頸に対するボツリヌス(ボトックス)治療も行っております。

診療実績(2013年度)

入院および外来患者数

	入院(消化器)	入院(神経)	外来(消化器)	外来(神経)
延患者数	13,947	2,724	19,610	5,106
一日平均患者数	38.2	7.4	80.4	20.9

消化器内科検査・治療件数

GIF	3,287
上部ESD	147
EVL	27
EUS	195
ERCP	182
CF	1,390
CF polypectomy	126
下部ESD	23
PEG	22
US	2,762
Doppler	75
造影エコー	218
PEIT	28
RFA	52
EIS	19
PTCD/PTGBD	27

神経内科入院患者数

脳炎・髄膜炎	10
脳血管疾患	22
てんかん	4
運動ニューロン病	8
パーキンソン病と類縁疾患	14
脊髄小脳変性症	6
多発性硬化症	8
ギラン・バレーほか末梢神経疾患	12
内科疾患に伴う神経障害	11
重症筋無力症	5
筋炎	4
その他	17

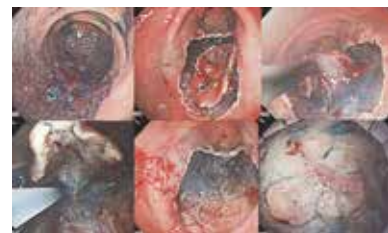
取り扱う主な疾患

胃・食道: 逆流性食道炎、食道癌、食道静脈瘤、胃炎、胃潰瘍、胃癌、十二指腸潰瘍、機能的ディスペプシアなど

大腸: 大腸癌、大腸ポリープ、潰瘍性大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群など

肝・胆・膵: 劇症肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞癌、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性肝硬変、非アルコール性脂肪性肝炎、胆石症、胆嚢炎、胆道癌、総胆管結石、急性・慢性膵炎、膵臓癌など

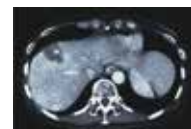
神経疾患: 脳炎・髄膜炎、脳血管障害、認知症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、運動ニューロン病、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症、筋炎、筋ジストロフィーなど



ESD(内視鏡下粘膜下層剥離術)



RFA治療前



RFA治療後



神経伝導速度検査



神経内科カンファレンス

循環器内科／呼吸器内科

Cardiovascular Medicine / Respiratory Medicine

- 連絡先…018-884-6110(医局)
- ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~naika2/>

スタッフ構成	教授	1名
	准教授	1名
	講師	3名
	助教授	7名
	教員	14名
	内科認定医・専門医	23名
	循環器専門医	7名
呼吸器専門医	2名	



診療科長
教授 伊藤 宏
Hiroshi Ito



副科長
准教授 渡邊 博之
Hiroyuki Watanabe



講師 佐野 正明
Masaaki Sano



講師 飯野 健二
Kenji Ino



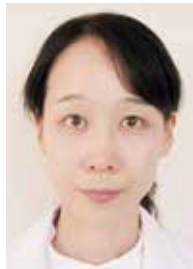
病棟医長
講師 佐藤 一洋
Kazuhiro Sato



助教 寺田 豊
Yutaka Terata



助教 小山 崇
Takashi Koyama



助教 飯野 貴子
Takako Ino



助教 寺田 舞
Mai Terada



助教 真壁 伸
Shin Makabe

診療内容・特色

循環器疾患、呼吸器内科を中心に一般内科学から救急医療にいたるまでの基本診療をしっかりと習得します。患者中心の広義のチーム医療が実践でき、生涯、医師としての生きがい、よろこびを実感できる良き臨床医を育成しております。当科の対象は15歳から100歳以上にわたり、予防から、診断、治療と、一線の家計医療から内科一般、高度な循環器救急・呼吸器救急・集中治療にいたるまで幅広い需要があります。さらなる高齢社会をむかえるにあたり、現在死因の30%以上を占める動脈硬化を基盤とした心血管疾患対策は、疾患予防、治療、健康寿命の延長など社会的にも最重要課題の一つです。高血圧、脂質異常症、耐糖能異常を基盤とした虚血性心疾患のみならず、心筋疾患、弁膜症、不整脈など、年齢とともに確実に増加する疾患に対し、より上流、より早期からの対策が喚起されております。また呼吸器、アレルギー疾患は全身の臓器を冒しうるため、診療には広い知識と病態を全身的にとらえることが必要です。当科の特徴は、予防から、診断、治療まで、様々な方面での活躍の機会が得られることです。

取り扱う主な疾患

循環器疾患

- 虚血性心疾患…急性冠症候群、狭心症
- 弁膜症…大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症、僧房弁狭窄症、僧房弁閉鎖不全症
- 不整脈…心室細動・頻拍、心房細動・粗動、上室性頻拍、除脈性不整脈
- その他、心筋症、肺血栓栓症、急性大動脈解離など

呼吸器疾患

- 慢性閉塞性肺疾患、喘息、原発性肺癌(小細胞癌、腺癌、扁平上皮癌、大細胞癌、肺胞上皮癌、その他)・転移性肺腫瘍・悪性胸腺腫・悪性胸膜中皮腫・肺炎・特異性間質性肺炎・二次性肺線維症(膠原病肺、その他)・び慢性汎細気管支炎・サルコイドーシス・過敏性肺臓炎・自然気胸・肺胞蛋白症・アスペルギルス症・カリニ肺炎・サイトメガロウイルス肺炎・膿胸・肺化膿症・好酸球性肺炎 など

診療実績

循環器内科(2013年度)

疾患名	件数
うっ血性心不全	132
急性冠症候群	30
安定狭心症	90
心筋症	18
肺血栓栓症	18
急性大動脈解離	12
不整脈	99

呼吸器内科(2013年度)

疾患名	件数
肺癌	223
縦隔腫瘍	8
肺炎	187
肺結核	11
非結核性抗酸菌症	19
好酸球性肺炎	1
間質性肺炎	58
慢性閉塞性肺疾患	50
気管支喘息	149
気胸	31
サルコイドーシス	12

血液内科／腎臓内科／リウマチ科

Hematology / Nephrology / Rheumatology

- 連絡先…018-884-6359(外来) 018-884-6116(医局)
- ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~naika3/>

スタッフ構成
 准教授 — 1名
 講師 — 3名
 助教 — 5名
 医員 — 9名



副科長
 准教授 小松田 敦
 Atsushi Komatsuda



講師 高橋 直人
 Naoto Takahashi



講師 田川 博之
 Hiroyuki Tagawa



医局長
 講師 亀岡 吉弘
 Yoshihiro Kameoka

診療内容・特色

当科は血液、腎臓、膠原病内科の緊密な連携を特徴としています。多くの医師が総合内科専門医資格を取得しており、広範な内科学の知識と経験をもとにした専門診療が可能で、血液内科は東北地域最初の移植施設として1983年から造血幹細胞移植を行い、これまで400例以上に行ってきました。移植細胞別には自家移植、同種移植、臍帯血移植、移植法別には非骨髄破壊的移植などを駆使して造血幹細胞移植を実施しています。また、分子標的療法を用いた造血器腫瘍の治療では遺伝子多型や薬剤血中濃度を測定することできめ細かな治療を行っています。同時に、非腫瘍性血液疾患の診断と治療にも力を入れており、特に貧血の診断治療学に関しては内外から高い評価を受けています。腎臓内科の腎生検数は年間約250例、総数では8,000例を超え、その多くが良好に保存されています。これらの解析データをもとにして最善の治療法を選択しています。膠原病内科の分野では、関節リウマチやSLEに対して新たに使用できるようになった免疫抑制剤や生物学的製剤を使用し、治療成績の向上を目指しています。全身性硬化症などの難治性自己免疫疾患に対しては血液内科の専門医と共同で自家末梢血幹細胞移植を実施しております。

取り扱う主な疾患

白血病、リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、特発性血小板減少性紫斑病、再生不良性貧血、赤芽球癆、血球貪食症候群、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎/皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病、血管炎症候群など多岐にわたります。

診療実績

2012年度血液内科入院新患者数

再生不良性貧血	3
赤芽球癆	1
発作性夜間血色素尿症	1
非ホジキンリンパ腫	48
ホジキンリンパ腫	1
急性骨髄性白血病	23
急性リンパ性白血病	16
慢性骨髄性白血病	6
慢性リンパ性白血病	1
多発性骨髄腫	41
骨髄異形成症候群	6
血友病	1
特発性血小板減少性紫斑病	3
同種移植晩期合併症	6
骨髄線維症	1
免疫不全症候群	6
骨髄増殖疾患	7
骨髄・末梢血幹細胞ドナー	17

2011年度腎臓病入院患者数

慢性糸球体腎炎	33
急性腎障害	4
ネフローゼ症候群	15
関節リウマチ	9
強皮症	8
混合性結合組織病	5
血管炎症候群	14
慢性腎不全	10
その他の腎疾患	4
全身性エリテマトーデス	11
多発性筋炎/皮膚筋炎	6
シェーンライン・ヘンッホ紫斑病	1
その他の膠原病	11

2013年度造血幹細胞移植施行数

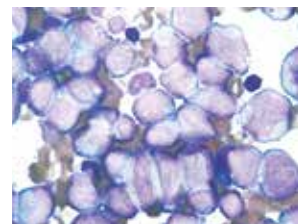
	骨髄移植	末梢血幹細胞移植		臍帯血移植
		自家	同種	
急性骨髄性白血病	4	1	2	1
急性リンパ性白血病	2			
慢性骨髄性白血病	1		1	1
悪性リンパ腫		6	1	
多発性骨髄腫		11	1	
骨髄異形成症候群	3			

検査の実績(2013年度)

骨髄穿刺	247件
腎生検	72件
関連施設	140件



腎生検



骨髄像

糖尿病・内分泌内科／老年内科

Diabetes and Endocrinology / Geriatric Medicine

- 連絡先…018-884-6360(外来) 018-884-6769(医局)
- ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~rounen/index.html>

スタッフ構成
 教授 — 1名
 准教授 — 1名
 寄附講座准教授 — 1名
 講師 — 1名
 助教 — 1名
 医員 — 11名



診療科長
 教授 山田 祐一郎
 Yuichiro Yamada



副科長・外来医長
 准教授 成田 琢磨
 Takuma Narita



講師 藤田 浩樹
 Hiroki Fujita



病棟医長・医局長
 助教 佐藤 雄大
 Takehiro Sato

診療内容・特色

当科は糖尿病・代謝・内分泌疾患とこれらの疾患における老年病の診療を行っています。当科の診療の中心である糖尿病は近年日本でも食生活の変化や高齢社会を背景に患者数が急増しており、放置すると眼・腎臓・神経などに細小血管合併症を引き起こし、脳梗塞や心筋梗塞などの動脈硬化症を進行させ、日常生活の質(QOL)を著しく低下させます。これらの合併症の発症や進展を阻止し、健康な人と変わらない生活・寿命を確保することを治療の目的の一つと考え、合併症の発症進展防止のために糖尿病のみならず高血圧・脂質異常症の治療にも同時に力を入れています。動脈硬化の評価に有用とされる頸動脈エコーについては糖尿病の初診患者には全例行い、他科からの依頼にも積極的に応じています。

内分泌疾患に関しては甲状腺、副腎、下垂体など内分泌疾患全般の診療を行っており、特に甲状腺疾患については初診時全例に超音波を施行し、腫瘍性疾患では穿刺吸引細胞診を日常診療として積極的に施行しています。その他高血圧症の原因として近年増加している原発性アルドステロン症などでは放射線科と協力し、静脈サンプリングなどを駆使して積極的な局在診断を行っています。

取り扱う主な疾患

- 糖尿病**: 2型糖尿病、1型糖尿病、境界型糖尿病、妊娠糖尿病など
- 代謝疾患**: 脂質異常症、高尿酸血症など
- 甲状腺疾患**: 甲状腺中毒症、甲状腺機能低下症、バセドウ病、亜急性甲状腺炎、慢性甲状腺炎、無痛性甲状腺炎、甲状腺腫瘍など
- 副甲状腺疾患**: 副甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能低下症など
- 脳下垂体疾患**: 下垂体機能低下症、先端巨大症、クッシング病、尿崩症、プロラクチノーマ、TSH産生腫瘍など
- 副腎疾患**: 副腎腫瘍、原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫など
- 電解質異常**: ナトリウム異常、カリウム異常、カルシウム異常など

診療実績

疾患別入院患者数(2013年度)

疾患名	件数
2型糖尿病	133
1型糖尿病	23
副腎疾患	24
甲状腺疾患	4
副甲状腺疾患	2
下垂体疾患	8
その他	23
計	217

疾患別新患外来患者数(2013年度)

疾患名	件数
2型糖尿病	434
1型糖尿病	2
妊娠糖尿病	9
その他代謝疾患	36
甲状腺疾患	148
副甲状腺疾患	9
下垂体疾患	9
副腎疾患	52
電解質異常	11
その他	26
計	736



CGMS

3日間の持続血糖測定が可能。
 より詳細な血糖プロフィールが解析できる。



CSII

持続的なインスリンの注射が可能。
 主に1型糖尿病患者に使用される。

消化器外科

Gastroenterological Surgery

- 連絡先…018-884-6126(消化器外科医局) 018-884-6364(消化器外科外来)
- ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~geka1/index.html>

スタッフ構成
 教授 — 1名
 准教授 — 1名
 講師 — 1名
 助教 — 4名
 医員 — 5名



診療科長 教授 山本 雄造 Yuzo Yamamoto
 副科長 准教授 打波 宇 Hiroshi Uchinami
 医局長 講師 宮澤 秀彰 Hideaki Miyazawa
 病棟医長 助教 飯田 正毅 Masatake Iida
 外来医長 助教 吉岡 政人 Masato Yoshioka
 助教 渡辺 剛 Go Watanabe
 助教 中川 康彦 Yasuhiko Nakagawa

診療内容・特色

当科は消化器系の診療を中心に行っており、常に最先端の医療を患者さんに提供できるよう診療、研究にあたっています。特に、消化器がん(胃がん・大腸がん・肝臓がん・胆道がん・膵臓がん)に対する治療に力を注いでいます。胃がんや大腸がんに対しては腹腔鏡を用いた侵襲の少ない手術を積極的に取り入れ、2013年は胃がん切除の60%、大腸がん切除の53%を腹腔鏡下の手術で行いました。また、当院は東北地方では15施設しかない日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設に認定されており、診断、治療が困難な肝胆膵領域の悪性腫瘍に対して根治性の高い手術を行うのみならず、標準治療では対応できない症例に対しても、血行再建など高度技能を駆使し、がんの取り残しのない手術を安全に行うよう努めています。これらの外科治療だけでは不十分な患者さんにあっても手術治療と抗がん剤治療や放射線治療などを有効に組み合わせる集学的治療や「がん」の臨床研究を基盤とした先進的な治療も行っています。

当科では常に個々の患者さんに最も適した治療法を提供するため、外科医師のみならず内科、放射線科の専門医師と意見交換を行い、症例検討を行っています(カンサーボード)。

取り扱う主な疾患

・胃がん ・大腸がん ・原発性・転移性肝がん ・胆道がん ・膵がん

手術数(2013年)

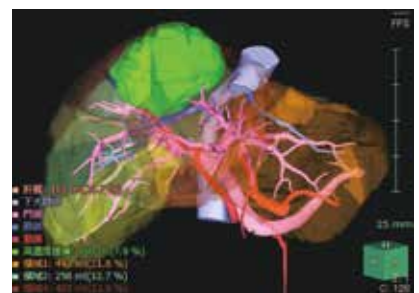
手術術式	件数
胃悪性腫瘍手術(腹腔鏡下)	43(26)件
大腸悪性腫瘍手術(腹腔鏡下)	40(21)件
肝切除(亜区域切除以上)	25(17)件
肝葉切除を伴う胆管切除	4件
膵頭十二指腸切除(門脈合併切除)	15(3)件
膵体尾部切除	7件
その他	122件
計	256件

疾患別入院患者数(2013年)

疾患名	件数
胃がん	98件
大腸がん	48件
原発性肝がん	44件
転移性肝がん	9件
膵がん	26件
胆道がん	36件
その他	110件
計	371件



腹腔鏡下幽門側胃切除後の傷跡



肝切除前のシミュレーション



カンサーボード風景

呼吸器外科／食道外科／乳腺・内分泌外科

Chest Surgery / Esophageal Surgery / Breast and Endocrine Surgery

- 連絡先…018-884-6132(医局) 018-884-6363(外来)
- ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~geka2/index.html>

スタッフ構成
 教授 — 1名
 特任教授 — 1名
 准教授 — 1名
 講師 — 2名
 助教 — 4名
 医員 — 6名



診療科長
 教授 南谷 佳弘
 Yoshihiro Minami



食道外科医長
 特任教授 本山 悟
 Satoru Motoyama



副科長・呼吸器外科医長
 准教授 齊藤 元
 Hajime Saito



外来医長
 講師 佐藤 雄亮
 Yusuke Sato



講師 今井 一博
 Kazuhiro Imai



助教 伊藤 亜樹
 Aki Ito



助教 吉野 敬
 Kei Yoshino



助教 佐々木 智彦
 Tomohiko Sasaki



病棟医長
 助教 今野 隼人
 Hayato Konno

診療内容・特色

当科は呼吸器外科、食道外科、乳腺・内分泌外科を担当しており、横隔膜より上の臓器を扱う胸部外科です。

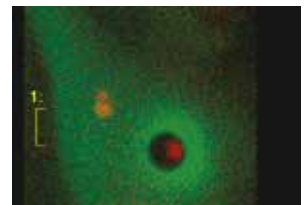
呼吸器外科では、肺癌や転移性肺腫瘍などの腫瘍性疾患の外科的治療を中心とし、早期肺癌に対する胸腔鏡手術や区域切除などの低侵襲手術も積極的に行っています。

食道外科では、食道癌を中心とした食道疾患全般に対する外科治療を行っています。食道癌に対しては“食道癌を完全に治すこと”つまり根治性を重視した治療を最も大切にしています。術前化学放射線治療を行わない比較的早期の患者さんには胸腔鏡下手術により胸壁破壊の少ない食道癌根治手術を行っています。また根治的放射線治療後に食道癌が残っている患者さんに対するサルベージ手術も導入しています。

乳腺内分泌外科では、乳癌治療を中心とした乳腺診療と甲状腺、副甲状腺などの内分泌臓器の外科治療を行っています。乳癌のセンチネルリンパ節生検による腋窩リンパ節郭清の省略化を導入しています。



胸腔鏡下手術創



乳癌におけるセンチネルリンパ節シンチグラフィ

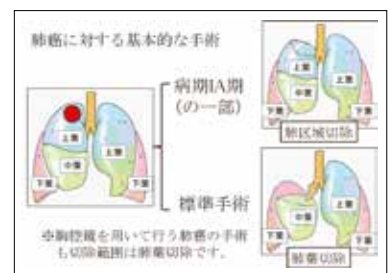
取り扱う主な疾患

- 肺癌
- 転移性肺腫瘍
- 縦隔腫瘍
- 自然気胸
- 食道癌
- 食道アカラシア
- 乳癌
- 甲状腺癌 など

診療実績

疾患別手術件数(2013年)

	疾患名	件数
呼吸器外科	肺 癌	72
	転 移 性 肺 腫 瘍	11
	縦 隔 腫 瘍	10
	そ の 他	30
食 道 外 科	食 道 癌	50
	アカラシア、良性腫瘍その他	22
乳腺、内分泌外科	乳 癌	43
	甲 状 腺 癌	30
	センチネルリンパ節生検	33
	計	298



心臓血管外科

Cardiovascular Surgery

- 連絡先…018-884-6362(心臓血管外科外来) 018-884-6135(心臓血管外科医局)
- ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~sinzou/>

スタッフ構成
 教授——1名
 講師——1名
 助教——2名
 医員——2名



診療科長
 教授 山本 浩史
 Hiroshi Yamamoto



講師 角浜 孝行
 Takayuki Kadohama



病棟医長
 助教 山浦 玄武
 Genbu Yamaura



外来医長
 助教 佐藤 央
 Hiroshi Satou



医員 白戸 圭介
 Keisuke Shiroto



医員 高木 大地
 Daichi Takagi

診療内容・特色

当科の診療は、先天性心疾患、後天性心疾患、大血管疾患、末梢血管疾患と広範囲にわたり、秋田県内のほとんどの患者さんを治療しています。我々の部門のモットーは、心臓移植以外の心臓血管外科治療をすべて県内で完結することを主目的に据えており、その治療成績は全国のトップクラスを維持しています。24時間、365日、新生児からお年寄りまでのすべての患者さんを受け入れ、県内の医療の中核病院としての役割を果たしています。

特に、胸部大動脈疾患については、急性解離や真性瘤破裂などの緊急手術を含めた死亡率は1%以下と、世界的においてもトップクラスの治療成績を収めています。このような治療成績は「地方においても世界的レベルの治療を提供できること」を医局のスローガンとしていることによるものであります。

取り扱う主な疾患

- ・先天性心疾患
- ・胸部・腹部大動脈瘤
- ・虚血性心疾患
- ・心筋症
- ・心臓弁膜症
- ・補助人工心臓移植
- ・不整脈(慢性心房細動治療、ペースメーカー移植など)
- ・末梢血管疾患(閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤など)



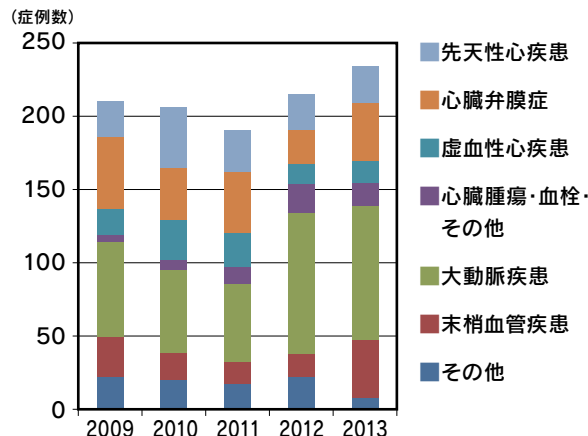
体外式補助人工心臓

診療実績

疾患別手術件数(2013年度)

先天性心疾患	33例
心臓弁膜症	36例
虚血性心疾患	14例
心臓腫瘍・心内血栓・その他	16例
大動脈疾患	89例
末梢血管疾患	36例
その他	7例
合計	231例

過去5年間の疾患別手術件数



ステンドグラフト内挿術

脳神経外科

Neurosurgery

- 連絡先…018-884-6361(脳神経外科外来) 018-884-6140(脳神経外科医局)
- ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~noushin/>

スタッフ構成
 教授 — 1名
 准教授 — 1名
 助教 — 5名
 医員 — 1名
 大学院生 — 4名



診療科長
 教授 清水 宏明
 Hiroaki Shimizu



副科長
 准教授 笹嶋 寿郎
 Toshio Sasajima



病棟医長
 助教 鈴木 明
 Akira Suzuki



外来医長
 助教 柳澤 俊晴
 Toshiharu Yanagisawa



助教 高橋 和孝
 Masataka Takahashi



助教 小田 正哉
 Masaya Oda

診療内容・特色

当科では脳血管障害、脳腫瘍、脊髄脊椎疾患の診断と外科治療、定位放射線治療を中心に診療を行っています。脳血管障害では、くも膜下出血、MRIの普及により発見される機会が増えた未破裂脳動脈瘤、頸部頸動脈狭窄症、バイパス術をはじめ、手術が難しい脳動脈瘤や脳動静脈奇形を治療しています。手術中に血管撮影、神経内視鏡を用いた観察を行い、安全性、確実性の向上に努めています。また、脳梗塞の危険因子に関し啓発を行い、脳卒中の予防に努めています。脳腫瘍に対しては、脳機能マッピング、CTやMRIの画像データをもとにした3Dシミュレーション、3Dモデル作成を術前に行い、手術ナビゲーションシステムや電気生理学的モニタリングを導入し、安全、確実な手術を行い、手術後の機能障害を最小限に抑え、悪性腫瘍には化学療法、放射線療法も行っています。脊髄脊椎疾患に対しては、最小限の切開で行う顕微鏡手術を導入し、手術の安全性、確実性の向上、低侵襲化に努めています。また、不安定性を有する脊椎疾患には最新のナビゲーション技術を駆使した固定術を行っています。定位放射線治療は放射線科と共同で、転移性脳腫瘍や手術が困難な良性脳腫瘍、脳動静脈奇形などの治療を行っており、2014年8月から最新型装置が導入されました。

取り扱う主な疾患

- 脳血管障害…くも膜下出血、脳出血、脳梗塞、脳動静脈奇形、もやもや病
 脳腫瘍…神経膠腫、髄膜腫、神経鞘腫、下垂体腺腫、転移性脳腫瘍
 脊髄脊椎疾患…頸椎症、腰椎症、椎間板ヘルニア、後縦靭帯骨化症、脊髄腫瘍
 その他…頭部外傷、てんかん、三叉神経痛、顔面痙攣、先天奇形

診療実績

疾患別手術件数(2013年)

脳腫瘍	75件
脳血管障害	52件
外傷	14件
奇形	6件
水頭症	20件
脊髄脊髄	90件
機能的手術	8件
血管内手術	2件
定位放射線治療	108件
計	375件

疾患別入院患者数(2013年)

脳腫瘍	201
脳血管障害	133
外傷	26
脊髄脊髄	102
その他	36
計	498

小児外科

Pediatric Surgery

- 連絡先…018-884-6365(小児外科外来) 018-884-6143(小児外科医局)
- ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~syouge/>

スタッフ構成
 准教授 ——— 1名
 助教 ——— 1名
 医員 ——— 2名



診療科長
 准教授 吉野 裕顕
 Hiroaki Yoshino



助教 森井 真也子
 Mayako Morii



医員 渡部 亮
 Ryo Watanabe

診療内容・特色

①日本小児外科学会認定施設

小児外科疾患に対する高度の医療を提供できる専門施設として、現在、全国でおよそ100施設が認定されていますが、秋田県では唯一の小児外科学会認定施設であり、秋田県の小児外科医療を担っています。

②対象疾患

新生児外科疾患

先天性食道閉鎖症、先天性横隔膜ヘルニア、先天性腸閉鎖、壊死性腸炎、腸回転異常、鎖肛、腹壁異常、ヒルシュスプルングなど

小児がん(悪性固形腫瘍)

神経芽細胞腫瘍、腎芽腫、肝芽腫、胚細胞腫瘍、横紋筋肉腫など

肝胆道疾患

胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症など

日常よく見られる小児外科疾患

乳児肥厚性幽門狭窄、腸重積症、虫垂炎、ソケイヘルニア、臍ヘルニア、体表の腫瘍、先天性瘻孔、便秘、肛門疾患など

泌尿生殖器疾患

水腎症、重複尿管、尿管瘤、膀胱尿管逆流、停留精巣など

その他

漏斗胸などの胸郭変形、外傷、しょうがいを持つ患者さんに対する胃食道逆流防止術、胃瘻造設術、気管切開、喉頭気管分離術など

診療体制

外来診療体制

曜日	受 付	診療内容
月曜	初診、再診	小児外科一般
火曜	初診、再診	小児外科一般
	毎 週	在宅中心静脈栄養外来
水曜	初診、再診	小児外科一般
	毎 週	肝移植外来
金曜	初診、再診	小児外科一般
	再診(毎週)	直腸肛門機能外来



小児の手術

診療実績

全麻手術数

		2011年	2012年	2013年
呼 吸 器	先天性	4	3	3
	後天性	6	7	4
消 化 器	先天性	17	15	17
	後天性	18	26	18
肝・胆・膵・脾臓	先天性	1	3	5
	後天性	1	1	0
泌 尿 生 殖 器	先天性	14	12	8
	後天性	6	0	2
胸 壁	先天性	2	3	0
	後天性	0	0	0
腹 壁	先天性	78	45	42
	後天性	1	0	1
頭 頸 部	先天性	5	3	0
	後天性	1	1	0
悪 性 腫 瘍	先天性	4	4	8
	後天性	10	5	4
そ の 他		11	11	14
総 手 術 数		179	138	128
新 生 児 手 術 数		17	13	14

主な疾患の治療実績(成績) 新生児主要外科疾患別成績(1978年~2013年)

症例数	死亡数	救命率	
先天性横隔膜ヘルニア	63	13	79.4%
食道閉鎖	52	7	86.5%
消化管穿孔	47	5	89.4%
腸閉鎖・狭窄	107	2	98.1%
腸回転異常	56	1	98.2%
腹壁異常	49	6	87.8%
直腸肛門奇形	109	6	94.5%
ヒルシュスプルング病(類縁)	55	2	96.4%

医療人教育の取組

秋田大学は1985年に全国で20番目の小児外科認定施設に認定され、その後も継続して小児外科医療の専門施設と認定されています。県内唯一の小児外科専門施設として小児外科医療を担う専門医の育成に力を入れており、今までに小児外科指導医4名、専門医12名を輩出しています。現在も指導医、専門医の指導のもと、小児外科専門医を目指す医師に対しては小児外科専従3年で専門医に必要、十分なカリキュラムを提供しています。また、外科専門医を目指す医師に対しても随時、小児外科の研修を受け入れています。

小児科

Pediatrics

- 連絡先…018-884-6366(小児科外来) 018-884-6159(医局)
- ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~syouni/index.html>

スタッフ構成
 教授 — 1名
 准教授 — 1名
 講師 — 3名
 助教授 — 3名
 特任助教 — 2名
 医員 — 10名



診療科長
 教授 高橋 勉
 Tsutomu Takahashi



副科長・病棟医長
 准教授 豊野 学朋
 Manatomo Toyono



講師 矢野 道広
 Michihiro Yano



講師 矢野 珠巨
 Tamami Yano



医局長
 講師 高橋 郁子
 Ikuko Takahashi



外来医長
 助教 野口 篤子
 Atsuko Noguchi

診療内容・特色

「小児疾患の総合医療」を目指し、新生児、総合、循環器、血液・腫瘍の4グループで診療を行っています。診療科長の指導のもと、各グループが経験・実績と最新知見を踏まえ、皆様に安心して頂ける医療を提供します。新生児グループはNICU 6床とGCU (Growing Care Unit) 3床を有し、低出生体重児の呼吸管理や小児外科疾患などの術前・術後の管理を行っています。総合グループは内分泌疾患に対するホルモン補充療法、難治性てんかんに対するケトン食療法、代謝疾患の診断(出生前後)及び治療、病態に応じた血液浄化療法を行っています。循環器グループは心疾患全般の治療に加え、複雑心疾患の胎児診断や、外科的治療と比較し侵襲の少ないカテーテル治療を行っています。血液・腫瘍グループは小児血液疾患、腫瘍性疾患、先天性免疫不全症の治療に加え、難治例や重症例に対する大量化学療法及び末梢血幹細胞移植を行っています。複数の疾患を有する小児には各グループが連携して治療に当たります。疾患及び医療行為に伴う小児への精神的影響を最小限にし、健全な心の発達を促す目的で、臨床心理士1名と保育士3名からなる「発達支援グループたんぼほ」が活動しています。

取り扱う主な疾患

新生児…極・超を含む低出生体重児、小児外科疾患、脳神経外科疾患などの先天異常を有する児

総合…内分泌疾患、神経疾患、先天代謝異常症、腎疾患(難治性ネフローゼを含む)、夜尿症、尿路疾患、肝炎、炎症性腸疾患

循環器…先天性疾患、川崎病(急性期及び心後遺症)、心筋症、心筋炎、不整脈、自律神経機能異常

血液・腫瘍…白血病、リンパ腫、固形腫瘍(神経芽腫、腎芽腫、肝癌、横紋筋肉腫、ユーイング肉腫、脳腫瘍)

診療実績

疾患別入院患者数(2013年度)

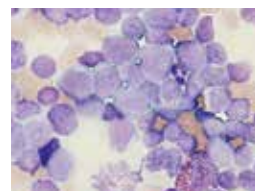
グループ名	疾患名	件数
新生児	低出生体重児(超低出生体重児)	41(1)
	小児外科疾患	17
	脳神経外科疾患	4
総合	神経筋疾患	94
	内分泌疾患	58
	腎・尿路疾患	48
	消化管疾患	25
	肝疾患	15
循環器	代謝疾患	14
	先天性疾患(複雑心疾患)	111(66)
	不整脈	12
	川崎病性冠動脈病変	4
血液・腫瘍	心筋症	4
	リンパ腫	2
	脳腫瘍	2
	横紋筋肉腫	1
	胚細胞性腫瘍	1
	卵巣腫瘍	1
その他	29	
計	484	

検査・治療実績(2013年度)

グループ名	検査・治療名	件数
新生児	人工呼吸管理	21
	一酸化窒素吸入療法	4
総合	脳波検査	174
	内分泌負荷試験	50
	腎生検	7
	筋生検	5
	血液浄化療法	4
	代謝異常疾患診断	3
	肝生検	2
循環器	心エコー検査(胎児心エコー検査)	1,432(22)
	心臓カテーテル・心血管造影検査	39
	トレッドミル運動負荷試験	16
全体	カテーテル治療	3
	MRI検査	325
	CT検査	198
核医学検査	63	



心臓カテーテル検査



小児急性リンパ性白血病の骨髄像



周産期医療の概念

産科婦人科

Obstetrics and Gynecology

- 連絡先…018-884-6367(婦人科外来) 018-884-6368(産科外来) 018-884-6163(産婦人科医局)
- ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~obgyn/>

スタッフ構成
 教授 — 1名
 准教授 — 2名
 講師 — 1名
 助教授 — 5名
 医員 — 10名
 胚培養士 — 2名



診療科長
 教授 寺田 幸弘
 Yukihiro Terada



副科長
 准教授 熊谷 仁
 Jin Kumagai



准教授 佐藤 朗
 Akira Sato

診療内容・特色

県内唯一の大学病院の産婦人科であることが最大の特徴です。2013年は342例の分娩数、100例を超す帝王切開、80例近い母体搬送受け入れ、81例のリンパ節郭清を含む悪性腫瘍手術数、405例の体外受精の採卵を行っています。婦人科手術では県内の悪性腫瘍手術の約6割を当院が担っております。体外受精症例数は県内の約7割を行っており、内視鏡手術も合わせて総合的な不妊治療を特色としております。救急患者や重症患者の受け入れを行う三次医療施設として、また、最先端の医療を提供できる研究施設として、双方の責務があるものと思っています。

また、県内の産婦人科医のほとんどが当教室の出身者です。従って、産婦人科医療に関しましては、当院産婦人科と患者さんがお住まいの近くの病院の産婦人科医師とは密接に連携を取りあっています。具体的には、手術前の検査は近くの病院で、手術は大学で、術後のフォローアップは元の病院で行うことが可能になります。

取り扱う主な疾患

産科／全ての産科合併症、胎児疾患、多胎妊娠管理
 婦人科／子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、他すべての婦人科腫瘍、子宮筋腫、子宮内膜症、生殖内分泌、不妊症、不育症、月経異常

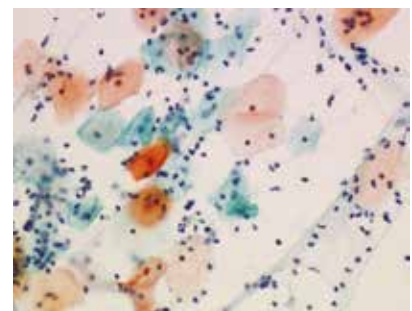
治療実績

外来患者数

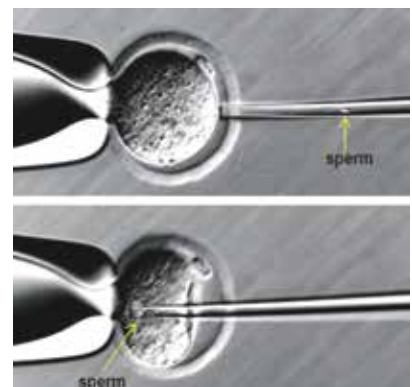
	2011	2012	2013
産科	5,247	5,262	4,403
婦人科	15,966	16,825	16,721

治療実績(2013年)

	件数
産科	342
うち帝王切開数	110
婦人科手術	14
子宮頸癌手術	32
子宮体癌手術	32
卵巣癌手術	59
内視鏡手術	405
体外受精	434
採卵件数	
胚移植件数	



子宮頸部細胞診



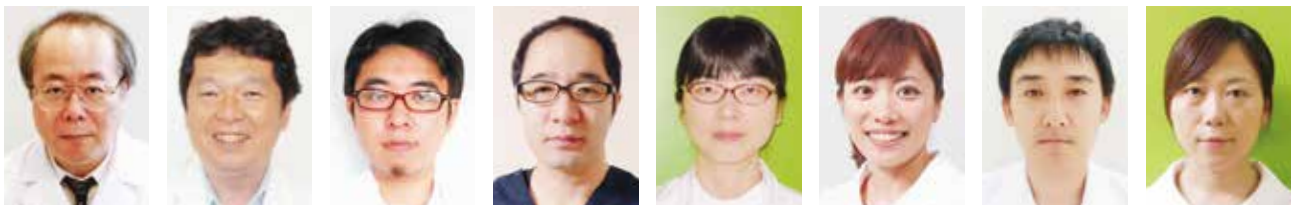
顕微授精

精神科

Psychiatry

- 連絡先…018-884-6370(精神科外来) 018-884-6122(精神科医局)
- ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~seisin/>

スタッフ構成
診療科長(教授) — 1名
准教授 — 1名
助教 — 6名
医員 — 8名
大学院生 — 6名
臨床心理士 — 1名



診療科長

教授

清水 徹男

Tetsuo Shimizu

副科長

准教授

神林 崇

Takashi Kanbayashi

医局長

助教

草薙 宏明

Hiroaki Kusanagi

病棟医長

助教

佐川 洋平

Yohei Sagawa

外来医長

助教

筒井 幸

Kou Tsutsui

助教

菊池 結花

Yuka Kikuchi

助教

岩城 忍

Shinobu Iwaki

助教

成田 恵理子

Eriko Narita

診療内容・特色

当院は、身体合併症を有する精神科患者受け入れの県内拠点病院に指定されています。重篤な身体合併症を持つ精神科患者や、妊娠出産を控えた精神科患者を積極的に受け入れ、各科との連携を密に行いながらバランスの取れた治療を行っています。加えて、思春期症例にも積極的に対応しています。

当院は大学病院でありながら、都道府県がん診療連携拠点病院にも指定されているという、全国でも珍しい立場にあります。当科スタッフも緩和ケアチームに参加しており、がんだけでなく重篤な身体疾患を有する患者および家族の精神的苦痛に対応しています。

また、治療抵抗性の精神科疾患に対する修正型電気けいれん療法や治療抵抗性統合失調症に対するクロザピン治療など、特色ある治療を行っています。我が国で2009年に導入されたクロザピンは既存薬に比べて有意に有効性が高いとされていますが、一方で重篤で致死的な副作用がまれに出現することがあり、頻回の検査と慎重投与が必要な薬剤です。治療反応性と副作用発現の予測因子を解明し、安全なクロザピン療法を確立していくことが求められています。当院ではこれまで31例の治療経験があります。

21世紀は脳の時代と言われており、脳は最後に残った未知の臓器です。精神疾患の原因はまだまだ分からないものが多いのですが、これから一気に明らかになっていくと考えています。例えば、ナルコレプシーは1999年から2000年にかけてその原因が明らかになりました。自己免疫性傍腫瘍性辺縁系脳炎の1つである抗NMDA受容体脳炎は重篤化すると脳炎症状を来しますが、その経過が従来悪性緊張病(致死性緊張病)として精神科で治療が行われてきた病態と非常に類似しております。また、その精神症状は統合失調症の初期と非常に似ており区別ができない時があるほどです。このことから、これまでは謎であった統合失調症の原因の一部に繋がると考えて、現在研究中です。

特殊外来としては、ものわすれ外来と睡眠外来を設置しています。ものわすれ外来では、各種認知症の診断を含めたものわすれ全般に対応しています。睡眠外来においては、各種睡眠障害の診断、治療を行っています。過眠症に関しては、日本で唯一のナルコレプシーの確定診断のための髄液オレキシンの測定を行っています。当院への検査入院の方だけではなく、全国と東アジアからの検体の測定依頼にも対応しております。

取り扱う主な疾患

- ・統合失調症
- ・気分(感情)障害(特殊型、難治性も含む)
- ・睡眠障害(不眠症、過眠症、睡眠覚醒リズム障害)
- ・各種てんかんおよび関連する精神障害
- ・不安障害(パニック障害、強迫性障害、身体表現性障害など)
- ・外傷後ストレス障害
- ・脳器質性精神障害(認知症、せん妄など)
- ・物質関連障害(アルコール症など)
- ・摂食障害

2013年度診療実績

外来患者数はのべ17,904名、新患者数は707名でした。

夜間・休日の救急外来受診者数207人、うち救急車の出動件数は51件でした。

睡眠覚醒障害の新患は136名で、そのうち過眠・リズム障害疑いは75名でした。

修正型電気けいれん療法施行件数は278件でした。

精神科病棟への入院患者数は323名、そのうち身体合併症管理加算対象患者数は74名でした。

整形外科

Orthopedic Surgery

- 連絡先…018-884-6371(整形外科外来) 018-884-6148(医局)
- ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~seikei/>

スタッフ構成
 教授 — 1名
 准教授 — 1名
 講師 — 4名
 助教 — 2名
 医員 — 3名
 大学院生 — 11名



診療科長
 教授 島田 洋一
 Yoichi Shimada



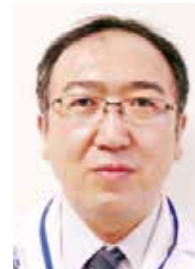
副科長
 准教授 宮腰 尚久
 Naohisa Miyakoshi



外来医長
 講師 山田 晋
 Shin Yamada



病棟医長
 講師 本郷 道生
 Michio Hongo



講師 永澤 博幸
 Hiroyuki Nagasawa



講師 粕川 雄司
 Yuji Kasukawa

診療内容・特色

整形外科が対象とする疾患は運動器疾患です。運動器とは、脊椎、関節、神経、筋、靭帯などからなり、これらの障害により身体活動が制限されます。代表的な疾患として椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、変形性関節症、リウマチ、骨軟部腫瘍、スポーツ障害、骨折・脱臼などの外傷が挙げられます。

最近では、高齢社会の到来で患者数が増加し、整形外科のニーズはこれまでになく高まっています。国民生活基礎調査をみても、日本人が訴える愁訴の第1位は腰痛、第2位は肩こりといずれも整形外科疾患で、病院を受診する病名としても高血圧に次いで腰痛が第2位です。

整形外科患者数は、内科に次いで第2位であり、いかに国民の生活に欠かせない診療科であることが分かります。特に秋田県は全国有数の高齢県であり、秋田大学医学部附属病院整形外科は地域医療に対する貢献に努めています。

取り扱う主な疾患

- 脊 椎 脊 髄 疾 患:** 椎間板ヘルニア、脊椎靭帯骨化症、脊椎すべり症、脊柱管狭窄症、脊椎外傷、脊椎感染症、脊柱変形(側弯症、後弯症)、脊椎脊髄腫瘍など
- 骨 関 節 疾 患:** 変形性関節症、スポーツ障害、骨関節感染症、四肢変形、関節リウマチなど
- 代謝性骨疾患・骨軟部腫瘍:** 骨粗鬆症、原発性骨腫瘍、転移性骨腫瘍、軟部腫瘍など

診療実績

2012年度の主な手術件数

主な手術術式	件数
棘突起縦割式頸椎拡大術	16
頸椎後方固定術	6
胸椎後方固定術	8
腰椎椎弓形成術	17
腰椎椎体間固定術	17
脊柱側弯症手術	15
肩関節鏡視下手術	13
人工股関節置換術	50
人工股関節再置換術	1
人工膝関節置換術	12
膝前十字靭帯再建術	14
原発性骨腫瘍手術	9
転移性骨腫瘍手術	4
軟部腫瘍手術	35



側弯症手術

皮膚科／形成外科

Dermatology

- 連絡先…018-884-6374(皮膚科外来) 018-884-6153(医局)
- ホームページ…<http://www.hos.akita-u.ac.jp/csd/dermatology.html>

スタッフ構成
 教授——1名
 准教授——1名
 講師——1名
 助教——5名
 医員——9名



診療科長
教授
眞鍋 求
Motomu Manabe



副科長
准教授
梅林 芳弘
Yoshihiro Umebayashi



講師
長田 真一
Shinichi Osada



助教
野口 奈津子
Natsuko Noguchi



助教
小谷野 博正
Hiromasa Koyano



医局長
助教
加藤 真紀
Maki Kato



病棟医長
助教
赤間 智範
Tomonori Akama



外来医長
助教
山田 勝裕
Katsuhiko Yamada

診療内容・特色

当科は秋田県の高次皮膚科診療を担っており、県全域から患者さんが集まって来ています。とりわけ、皮膚悪性腫瘍(日光角化症・ポーエン病・有棘細胞癌・基底細胞癌・乳房外パジェット病・悪性黒色腫など)や重症熱傷の治療に力を入れています。その一方で、湿疹・蕁麻疹などのアレルギー性疾患、白癬・帯状疱疹などの感染症といった一般的な皮膚疾患も多く、common diseaseから重篤な疾患まで、担当している診療領域は広汎多岐にわたっています。また、特殊な専門外来として、美容・にきび外来、爪外来を開設しており、近年多様化した患者ニーズに対応できる診療体制を敷いています。また、特殊医療機器として、炭酸ガスレーザー、ナローバンドUVB照射装置、ダーモスコープ、皮膚エコーを外来に備えています。悪性黒色腫に対しては、センチネルリンパ節生検による評価を行っています。

さらに当科では、形成外科も併設しており、皮膚・軟部腫瘍の外科的治療を担っています。そのほか、種々の皮弁形成術、マイクロサージャリーを用いた血管吻合術、複合組織移植術などにより、熱傷・外傷・手術後の組織欠損に対する再建術を施行しています。



センチネルリンパ節
シンチグラム



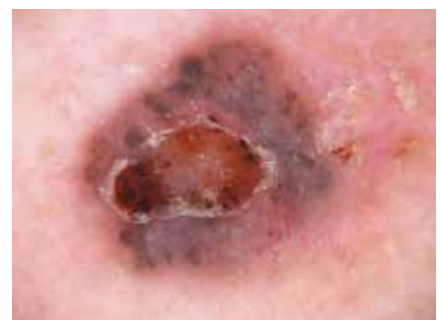
炭酸ガスレーザー

取り扱う主な疾患

- ・悪性黒色腫
- ・有棘細胞癌
- ・基底細胞癌
- ・乳房外パジェット病
- ・ポーエン病
- ・日光角化症
- ・悪性リンパ腫
- ・母斑・母斑症
- ・壊死性筋膜炎
- ・ガス壊疽
- ・重症薬疹
- ・尋常性天疱瘡
- ・尋常性乾癬
- ・広範囲熱傷
- ・成人型アトピー性皮膚炎
- ・慢性蕁麻疹 など

疾患別手術件数(2013年度)

疾患名	件数
皮膚悪性腫瘍	283
皮膚良性腫瘍	294
熱傷・外傷	22
癬 痕	9
皮膚潰瘍	2
その他	46
計	656



ダーモスコープ



ナローバンドUVB照射装置

泌尿器科

Urology

●連絡先…018-884-6375(泌尿器科外来) 018-884-6156(泌尿器科医局)

●ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~hinyoki/default.html>

スタッフ構成
 教授——1名
 准教授——1名
 講師——3名
 助教——3名
 医員——8名



診療科長
 教授
 羽瀨 友則
 Tomonori Habuchi



副科長
 准教授
 土谷 順彦
 Norihiko Tsuchiya



講師
 成田 伸太郎
 Shintaro Narita



外来医長
 講師
 井上 高光
 Takamitsu Inoue



医局長
 講師(血液浄化療法部)
 齋藤 満
 Mitsuru Saito



病棟医長
 助教
 秋濱 晋
 Susumu Akihama



助教
 沼倉 一幸
 Kazuyuki Numakura



助教
 鶴田 大
 Hiroshi Tsuruta

診療内容・特色

当科では、様々な最先端の治療を行っています。以下にそのいくつかを紹介します。

●腹腔鏡手術、ロボット支援腹腔鏡手術

TVモニターで体内を観察しながら専用の手術器具を術者が直接手で操作するか、手術支援ロボットを用いて、より精密な手術を行うものです。低侵襲でより合理的、精密、合併症の少ない手術を目的としています。対象は副腎、腎、膀胱、前立腺などの様々な疾患が対象となります。ロボット支援手術は前立腺がん、膀胱がん、腎がんに対して行っています。

●腎移植

当科は全国でもトップレベルの移植件数を誇っています。腎を提供する方の苦痛を軽減するため、腹腔鏡下手術による腎の摘出をいち早く導入しており、現在では、腎を体外へ取り出すための5~6 cm程度の皮膚切開1カ所のみでの手術が可能です。

●がんの治療

がんの種類や進行に応じて、外科手術、放射線治療、抗がん剤治療、分子標的薬(またはこれらの組み合わせ)を行います。開腹手術などの標準的な手術式に加え、適応を考慮しながら腹腔鏡手術も積極的に導入しています。抗がん剤治療や分子標的薬治療については新規の治療も行っております。各治療の詳細については、当科ホームページをご参照ください。

●骨盤臓器脱・尿失禁の治療

膀胱、子宮、直腸などが壁を介して腔口から出てしまう骨盤臓器脱に対して、薬物治療、運動療法その他、メッシュ手術も行っています。女性の腹圧性尿失禁に対する手術も行っています。詳細については当科ホームページをご参照ください。

取り扱う主な疾患

泌尿器・生殖器腫瘍

前立腺がん、腎がん、尿管がん、膀胱がん、精巣腫瘍、副腎腫瘍、陰茎がん

腎不全

腎移植、血液浄化法、急性腎不全、慢性腎不全

排尿障害・尿失禁

前立腺肥大、神経因性膀胱、尿失禁、骨盤臓器脱、尿道狭窄症

男性の不妊症

乏精子症、無精子症

ED(勃起障害)

尿路・生殖器感染症

腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、尿道炎、精巣上体炎、性行為感染症、尿路結核

先天異常

尿道下裂、後部尿道弁、膀胱外反症、停留精巣、膀胱尿管逆流、尿管瘤、馬蹄鉄腎

尿路結石症

腎結石症、尿管結石症、膀胱結石症、尿道結石症

尿路・性器外傷

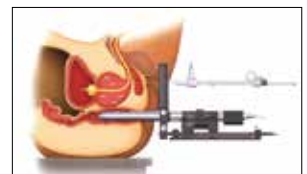
腎外傷、尿管外傷、膀胱破裂、尿道外傷

診療実績(2013年1月~12月)

入院総数	755例
総手術件数	421件
腎移植術	19件(うち献腎移植0件)
腹腔鏡下単純腎摘除(ドナー腎採取を含む)	20件
根治的腎摘除術	23件(うち腹腔鏡手術18件)
腎部分切除術	18件(うち腹腔鏡手術7件)
副腎摘除術	8件(うち腹腔鏡手術7件)
経尿道的膀胱腫瘍切除術	89件
腎尿管全摘除術	14件(うち腹腔鏡手術13件)
膀胱全摘除術	12件(うち新膀胱造手術2件)
根治的前立腺摘除術	66件(うちロボット支援手術52件)
高位精巣摘除術	8件
前立腺がん密封小線源療法	21件
ブラッドアクセス手術	59件
骨盤臓器脱メッシュ手術	5件
精巣精子採取術(TESE)	11件



ロボット支援腹腔鏡手術システム



前立腺がんに対する密封小線源療法(ブラキセラピー)



小さな傷(約5cm)1カ所です済む腹腔鏡下単孔式ドナー腎採取術

眼科

Ophthalmology

- 連絡先…018-884-6167 (TEL) 018-836-2621 (FAX)
- ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~ganka/>

スタッフ構成	教授	1名
	准教授	1名
	講師	1名
	助教授	4名
	医師	7名
	視能訓練士	5名



診療科長
教授 吉富 健志
Takeshi Yoshitomi



副科長
准教授 石川 誠
Makoto Ishikawa



外来医長
講師 澤田 有
Yu Sawada



病棟医長
助教 岩川 雅哉
Masaya Iwakawa

診療内容・特色

当院では、眼科分野に関するあらゆる難治疾患の診療に当たっており、県内全域から数多くの患者さんをご紹介頂いています。特に当科では、我が国における失明原因の1位を占める緑内障治療に重点を置いています。最近では、視神経の立体写真をとる特殊な眼底カメラ、三次元画像解析装置を用いた視神経の画像解析装置、隅角の超音波検査装置など、最新の診断機器を導入し、患者さんの早期発見に努めています。また、視野検査もその一人一人の結果をコンピュータで解析し、今後の進行を予測して治療に当たっています。緑内障手術についてもインプラント手術などの新しい手法を積極的に取り入れています。

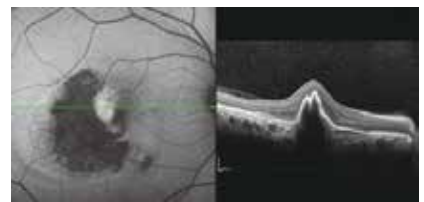
網膜硝子体疾患では、網膜の層構造を細胞～組織レベルで非侵襲的に観察できる光干渉断層計(OCT)をフル稼働させ、加齢黄斑変性をはじめとした黄斑疾患の診療に当たっています。加齢黄斑変性の治療は、光線力学的療法(PDT)や抗血管新生薬など症例に応じた最適な治療を行い良好な結果を得ております。網膜剥離や糖尿病網膜症の手術についても極小切開無縫合硝子体手術などの最新のシステムと手技を導入してより安全で確実かつ短時間で侵襲の少ない手術を目指しています。

取り扱う主な疾患

緑内障、白内障、眼炎症疾患(ぶどう膜炎、感染性疾患)、網膜硝子体疾患(加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜剥離、血管閉塞性疾患、黄斑浮腫、黄斑円孔、黄斑前膜)、神経眼科(視神経症、眼球運動障害)、屈折異常、斜視、弱視、角結膜疾患

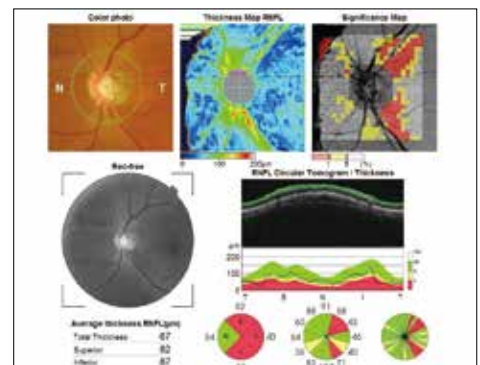
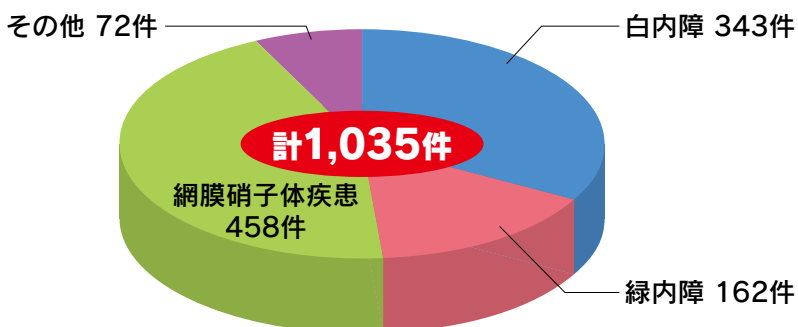


白内障手術



光干渉断層計(OCT)

2013年入院患者手術件数



視神経の画像解析

耳鼻咽喉科

Otorhinolaryngology

- 連絡先…018-884-6377(耳鼻咽喉科外来)
- ホームページ…<http://www.hos.akita-u.ac.jp/~jibika/>

スタッフ構成
 教授——1名
 准教授——1名
 講師——3名
 助教——3名
 医員——2名



診療科長
 教授 石川 和夫
 Kazuo Ishikawa



副科長
 准教授 本田 耕平
 Kohei Honda



講師 山崎 一春
 Kazuharu Yamazaki



医局長・外来医長
 講師 鈴木 真輔
 Shinsuke Suzuki



講師 近江 永豪
 Eigo Omi

診療内容・特色

耳鼻咽喉科では、耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頸部の疾患全てに対し、幅広く高度な医療を提供できるよう心掛けつつ診療を行っています。当科で積極的に施行している具体的な治療内容は下記のとおりです。

●耳科領域

鼓室形成手術、人工内耳、聴神経腫瘍手術、めまい疾患に対する詳細な聴・前庭系機能検査結果に基づく細別診断と治療(外科処置も含む)、顔面神経麻痺に対する内科的ならびに外科的治療(特に機能再建術)。

●鼻科領域

内視鏡を用いた鼻・副鼻腔手術、顔面骨骨折や眼窩壁骨折の手術。アレルギー性鼻炎に対する外科的処置や減感作療法など。

●咽喉頭領域

咽頭、喉頭、口腔、唾液腺、甲状腺などの腫瘍に対する手術、ELPS、睡眠時無呼吸症候群に対する外科的処置。

●音声言語領域

一側声帯麻痺に対する喉頭枠組み手術。声帯ポリープや声帯結節など器質的音声障害疾患から痙攣性発声障害、心因性発声障害など機能性音声障害まで音声に関する疾患の治療。

●頭頸部領域

頭頸部癌に対する集学療法と各種有茎・遊離皮弁による即時機能再建手術。また、症例に応じて照射療法としてのIMRTを施行する事も可能。頭蓋底浸潤悪性腫瘍で手術適応と判断される症例に脳外科との共同手術として適宜対応しています。

取り扱う主な疾患

耳 疾 患: 難聴、耳鳴、中耳炎、真珠腫性中耳炎、中耳奇形、聴神経腫瘍など

鼻 疾 患: 慢性副鼻腔炎、鼻アレルギー、嗅覚障害など

口 腔 疾 患: 舌炎、味覚障害、口内炎、口内乾燥症など

咽喉頭疾患: 扁桃炎、咽喉頭炎、声帯ポリープ、発声障害など

め ま い: メニエル病、前庭神経炎、良性発作性頭位めまい症、椎骨脳底動脈循環不全など

頭頸部腫瘍: 上顎腫瘍、舌・口腔腫瘍、咽頭腫瘍、喉頭腫瘍、甲状腺腫瘍、耳下腺腫瘍、その他の頭頸部腫瘍

そ の 他: 気道・食道異物、顔面神経麻痺、顔面外傷、嚥下障害、睡眠時呼吸障害(いびき)

治療実績(2013年1月~12月)

	手術名	件数		手術名	件数		手術名	件数		手術名	件数
耳	外耳道形成術	1	鼻・副鼻腔	上顎骨部分切除術	3	咽頭・喉頭	レーザー切除術	6	頸部	下顎骨切除術	1
	鼓膜形成術	19		鼻中隔矯正術	2		気管支異物摘出術	1		気管切開術	31
	鼓室形成術	42		眼窩底骨整復術	3		咽頭悪性腫瘍切除術	23		甲状腺腫瘍切除術	8
	人工内耳	1		アデノイド切除術	5		喉頭全摘術	7		甲状腺悪性腫瘍手術	9
	顔面神経減圧術	1		口蓋扁桃摘出術	14		大胸筋皮弁再建	7		耳下腺腫瘍切除術	14
	鼓室試験解放	1		舌垂全摘術	3		遊離腹直筋皮弁再建	3		耳下腺悪性腫瘍手術	2
	内リンパ嚢解放術	1		舌半切術	5		遊離空腸再建	14		顎下腺腫瘍切除術	6
鼻・副鼻腔	内視鏡下副鼻腔手術	50	舌部分切除術	10	頸部廓清術	70	その他	190			
	下鼻甲介切除術	8	遊離前腕皮弁再建	10	センチネルリンパ節生検	3	総数	618			
	上顎拡大全摘術	1	咽頭・喉頭	マイクロランゴ手術	22	リンパ節生検			21		

放射線診断科／放射線治療科

Diagnostic Radiology / Radiation Oncology

- 連絡先…018-884-6179(医局) 018-884-6378(放射線科外来)
- ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~housya/index.html>

スタッフ構成
 教授——1名
 准教授——1名
 講師——2名
 助教——3名
 医員——4名



診療科長
 教授 橋本 学
 Manabu Hashimoto



外来医長
 准教授 高橋 聡
 Satoshi Takahashi



病棟医長
 講師 安倍 明
 Akira Anbai



講師 石山 公一
 Koichi Ishiyama

診療内容・特色

●診断部門

院内の全ての科を対象とした画像診断を受け持っており、また院外からの検査依頼にも適宜対応しています。各科からの検査依頼により、主治医と協力して画像診断を行い、各科とのカンファレンスを持ち、治療方針の決定に関与しています。2010年から法医学教室と連携して法医学CT(司法解剖前の死体CT検査)の読影を行っています。血管内治療では、悪性腫瘍の動脈塞栓術や抗がん剤動注、臓器血管損傷に対する動脈塞栓術、肺動静脈奇形や中枢神経系疾患に対する塞栓術などを行っています。さらに放射性同位元素を用いた放射線治療として、甲状腺機能亢進症や甲状腺がんのヨード内用療法、骨転移に対する除痛治療であるストロンチウム療法も行っています。

●治療部門

悪性腫瘍に対して外部から放射線を照射する治療(外照射)を中心に行っています。定位的放射線照射(病気の部分にだけ集中的に放射線を照射する方法)も行っており、脳血管奇形、髄膜腫や聴神経腫瘍などの良性腫瘍に対しても治療対象疾患が広がっています。婦人科領域の子宮腫瘍、食道腫瘍、胆管腫瘍などに対して腔内照射(内照射)も行っています。2009年度にはライナックが更新され、前立腺がんや頭頸部がんには強度変調放射線治療(IMRT)および画像誘導放射線治療による高精度放射線治療も開始しています。

■取り扱う主な疾患

悪性腫瘍全般、血管内治療の適応となる疾患(血管奇形、動静脈瘻、出血、血管狭窄、動脈瘤など)、CTガイド下interventionの適応となる疾患(生検、ドレナージなど)、救急疾患全般

■診療実績

放射線診断部門(2013年度:2013年4月～2014年3月)

(1)IVR(interventional radiology)

経カテーテル治療137名(中枢神経:頭頸部:延べ14名、胸部:延べ17名、腹部:延べ165名)。CTガイド下intervention36名(肺マーキング:8名、経皮的ドレナージ:6名、生検:22名)

(2)検査報告書作成数:27,035件

CT検査16,065件、MRI検査7,344件、核医学検査1,207件、PET-CT検査1,317件、血管造影検査310件、マンモグラフィ検査493件、読影依頼299件

(3)ヨード内用療法、ストロンチウム療法

甲状腺ヨード内用療法56名、ストロンチウム療法3名

放射線治療部門(2013年度:2013年4月～2014年3月)

部位別放射線治療患者数(延べ数) 685名

原発部位	症例数
頭 頸 部	161
脳 脊 髄	60
肺・気管・縦隔	97
食道	111
肝 胆 膵	9
大 腸	11
乳 腺	40
泌 尿 器	75
婦 人 科	32
悪 性 リ ン パ 腫	13
造 血 器	24
皮 膚 軟 部	19
骨	0
良 性 疾 患	8
原 発 不 明・そ の 他	10
合 計	670

左記中の特殊治療件数

脳 定 位 照 射	99
前 立 腺 I M R T	3
子 宮 腔 内 照 射	13
全 身 照 射	16
小 線 源 ヨ ー ド 前 立 腺 刺 入	19



コーンビームCT対応型血管造影装置

麻酔科

Anesthesiology

- 連絡先…018-884-6379(麻酔科外来) 018-884-6175(医局)
- ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~masui/>

スタッフ構成
 教授 — 1名
 准教授 — 1名
 講師 — 2名
 助教 — 5名
 医員 — 6名



診療科長
 教授 西川 俊昭
 Toshiaki Nishikawa



副科長
 病院教授 堀口 剛
 Takashi Horiguchi



外来医長
 講師 合谷木 徹
 Tooru Gouyagi



病棟医長
 助教 長崎 剛
 Gou Nagasaki



医局長
 助教 佐藤 浩司
 Kouji Satou

診療内容・特色

麻酔科は、手術時の麻酔と全身管理を担当しています。高齢化社会により高血圧、虚血性心疾患、糖尿病、腎臓病などの合併症を持った患者さんが手術を受ける機会が増えています。特に当院は大学病院という特性上、県内全域から重度の合併症を持った患者さんが紹介されてきます。麻酔科専門医の資格を持った医師が、それぞれの患者さんにとって最適と思われる麻酔法を選択して全身管理を行っています。また、小児心臓手術、緊急心臓・大血管手術、難易度の高い各科手術など、県内の他病院では対応が困難な手術の麻酔管理に全力を挙げて、24時間体制で取り組んでおります。また、手術室での麻酔管理以外にも、血管造影室・CT室・MRI室での検査時の全身麻酔管理も行っています。

麻酔管理以外には、ペインクリニック外来において難治性疼痛の治療を行っています。緩和ケアにおいても院内の緩和ケアチームの一員としても積極的に関わっています。外来ではその他、外科系診療科からの重症患者の術前麻酔相談も受けています。

取り扱う主な疾患(外来)

- ・帯状疱疹および帯状疱疹後神経痛
- ・椎間板ヘルニア
- ・三叉神経痛
- ・顔面神経麻痺
- ・群発頭痛
- ・幻肢痛
- ・末梢血行障害
- ・その他の難治性疼痛



全身麻酔管理

診療実績

全身麻酔管理件数(2013年度)

手術名	件数
開頭手術	127
開胸手術(内視鏡)	117
開胸手術(非内視鏡)	78
心臓・大血管手術(成人)	197
心臓・大血管手術(小児)	35
上腹部手術(内視鏡)	102
上腹部手術(非内視鏡)	177
下腹部手術(内視鏡)	174
下腹部手術(非内視鏡)	274
下腹部手術(経尿道的)	20
頭頸部手術	621
帝王切開術	106
脊椎手術(内視鏡)	44
脊椎手術(非内視鏡)	173
股関節・四肢手術	304
胸壁・腹壁・会陰手術	178
検査麻酔	6
その他の	17
計	2,750

外来新患数(2013年度)

疾患名	件数
帯状疱疹および帯状疱疹後神経痛	11
椎間板ヘルニア	1
三叉神経痛	3
顔面神経麻痺	1
その他	45
麻酔相談外来	86



外来診察

リハビリテーション科／リハビリテーション部

Rehabilitation Medicine / Division of Rehabilitation

- 連絡先…018-884-6372(リハビリテーション外来)
- ホームページ…<http://www.hos.akita-u.ac.jp/cdtf/rehabilitation.html>

スタッフ構成
 教授(兼任) — 1名
 准教授 — 1名
 助教 — 1名
 理学療法士(PT) — 4名
 作業療法士(OT) — 1名



部長
 教授(兼任) 島田 洋一
 Yoichi Shimada



副部長
 准教授 松永 俊樹
 Toshiki Matsunaga



助教 齊藤 英知
 Hidetomo Saito

■診療内容・特色

リハビリテーションでは、臨床各科から依頼を受けて専任医師がリハ処方を行い、専門的なリハビリテーション治療を実施しています。対象としている主な疾患は、脳卒中、脳腫瘍、脳性麻痺などの脳疾患、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、脊髄小脳変性症などの神経疾患、脊髄腫瘍、脊柱変形、椎間板ヘルニア、腰椎すべり症などの脊椎・脊髄疾患、変形性関節症、四肢切断、手の外傷、リウマチ、スポーツ障害、交通外傷などの整形外科疾患、肺気腫などの呼吸器疾患、心筋梗塞、狭心症などの循環器疾患、糖尿病、肥満などの内分泌疾患、その他多くの小児疾患など多岐にわたっています。

当科の特色として、機能的電気刺激(functional electrical stimulation; FES)による治療があります。FESは、脳卒中や脊髄損傷などにより麻痺した手足を電気刺激により動かす治療法で、整形外科と共同して最新の表面電極FES装置による治療に取り組んでいます。また、近年脳疾患などへの臨床応用が進みつつある反復経頭蓋磁気刺激を導入し、治療への取り組みを進めています。



新型の表面電極FES装置



反復経頭蓋磁気刺激装置

■取り扱う主な疾患(施設基準)

- ・心大血管疾患リハビリテーション(I)
- ・脳血管疾患等リハビリテーション(II)
- ・運動器リハビリテーション(I)
- ・呼吸器リハビリテーション(I)
- ・がん患者リハビリテーション

■診療実績

2013年度疾患別平均延べ人数(一月あたり)

脳卒中	その他脳疾患・脳外傷	261名
脊髄損傷	とその他脊髄疾患	107名
リウマチを含む骨関節疾患		549名
脳性麻痺を含む小児疾患		14名
神経筋疾患		22名
切断		2名
呼吸・循環器疾患		54名
その他		62名

腫瘍内科

Clinical Oncology

●連絡先…018-884-6364(腫瘍内科外来) 018-884-6261(医局)

●ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~medonco/>

スタッフ構成

教授 — 1名

特任助教 — 1名



診療科長

教授 柴田 浩行

Hiroyuki Shibata



副科長・外来医長・病棟医長

特任助教 井上 正広

Masahiro Inoue

診療内容・特色

当科では、

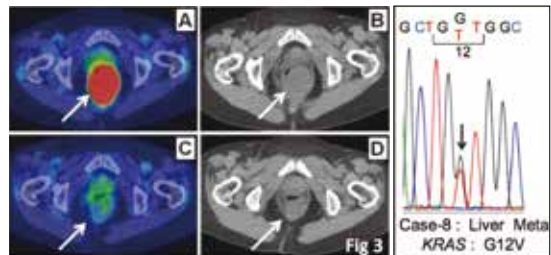
- 1)手術後に再発し、再手術は不可能と言われた
- 2)遠隔転移があり、外科的切除が不可能と言われた

このような進行期のがんを診療します。

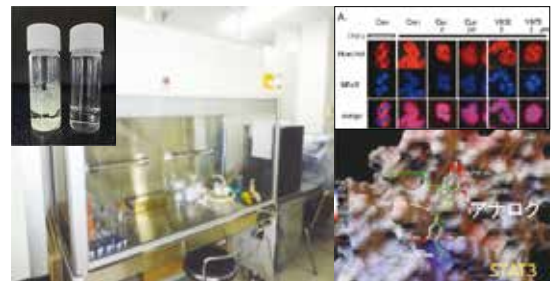
治療手段は薬物療法です。これには大きく3種類の薬剤があります。

- 1)抗がん剤;がん細胞を殺す治療薬
- 2)分子標的薬;がん細胞を活性化させている分子を抑え、がんを抑える薬
- 3)支持療法薬;がんによる症状や副作用を緩和する治療薬

治療のモットーは「がんを抑えて活動的な日々を過ごす」ことにあります。進行期のがんは非常に難しい病気ですが、上記の薬物でがんとの闘いを支援します。2012年度に当科で治療したがんの内訳を示します。また、当科では様々な臨床試験にも参加しています。



がん分子標的治療の実践



がん分子標的治療の開発

診療実績

症例数(2012年4月～2013年3月)

症例数:115症例(男:女=75:40)

年齢:28～85歳(中央値63歳)

がん腫	がん腫	がん腫	がん腫
結腸直腸がん	33	骨軟部腫瘍	10
胃がん	34	メラノーマ	2
食道がん	9	頭頸部腫瘍	1
膵臓がん	1	婦人科腫瘍	1
原発不明がん	8	高CEA血症	1
胆道がん	2	膀胱がん	1
NET	8	脳腫瘍	1
GIST	2		

外来化学療法室実施レジメン

腫瘍内科			
G	E	M	S O X DTX + CB DCA
G E M + T S - 1	B v + F O L F I R I	M T X / 5 - F U	
w P T X	B v + s L V 5 F U 2	D T I C 大 量 療 法	
D T X	B v + X E L O X	A D M 単 独	
D T X + T S - 1	B v + I R I S	A M R	
C P T - 1 1	P - m a b	E C 1 0 0	
低用量CDDP+CPT-11	P - m a b + C P T - 1 1	V B L (デ ス モ イ ド 腫)	
s L V 5 F U 2	P - m a b + F O L F I R I	G E M + D T X (軟 部 肉 腫)	
X E L O X	V P - 1 6 + C B D C A	C P T - 1 1 + T M Z	
I R I S	G E M + C B D C A		

救急科

Emergency Medicine

- 連絡先…018-884-6185(医局)
- ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~kyukyu/>

スタッフ構成
 教授 ——— 1名
 准教授 ——— 1名
 助教 ——— 2名



診療科長
 教授 清水 宏明
 Hiroaki Shimizu



病棟医長
 准教授 中永 士師明
 Hajime Nakae



助教 五十嵐 季子
 Toshiko Igarashi



助教 奥山 学
 Manabu Okuyama

診療内容・特色

救急科の主な診療の場は、ER(救急外来)とICU(集中治療室)です。ERでは種々の疾患の急性期や外傷・熱傷・中毒などの外因子による急病者を診療し、緊急度と重症度を迅速に判断し、呼吸循環の安定化を主眼とした緊急処置を行います。またERは卒後臨床研修の最も重要な医療現場であると認識し、教育的な診療を実施しています。ICUでは人工呼吸管理、循環管理、体温管理、各種血液浄化法等を駆使して重症患者の診療を行います。

スタッフは救急科専門医、集中治療専門医、外科専門医、熱傷学会専門医、外傷学会専門医、整形外科専門医、麻酔科専門医等を取得し、その知識と技術を診療に生かしています。

厚生労働省指定の災害派遣医療チームDMAT(disaster medical assistance team)の編成においては中心的に関与しています。

取り扱う主な疾患

ER:当科は救急部運営の主軸です。当科の救急部勤務時間には、種々の疾患の急性期治療と初療を行います。また三次救急担当医としてオンコール体制をとり、院外心停止、急性中毒、広範囲熱傷など蘇生や集中治療を必要とする症例に対応しています。

ICU:当科が主治医になる場合(院外心停止蘇生後、急性中毒、鈍的外傷など)と、他診療科と併診する場合があります。他診療科と併診する場合は、ICU入室中の診療を当科が担当し集中治療医の役割を担います。



診療実績

外来診療実績 各診療科協力の下、24時間365日対応可能な「救急部」の診療体制を構築しています。「救急部」の項を参照ください。

入院診療実績

2013年度 救急科入院件数(総数23件)

分類	傷病名	件数	機械的臓器補助
院外心停止	低酸素性脳症	6	人工呼吸(6)、脳低体温療法(1)
外傷	多発外傷(骨盤骨折、血気胸等)	2	人工呼吸(2)、持続緩和式血液濾過CHDF(2)
	多発肋骨骨折	1	
	外傷性血気胸	1	人工呼吸(1)
	ガソリンによる化学性肺炎	1	人工呼吸(1)、体外式膜型人工肺ECMO(1)
	溺水	1	
	気道熱傷	1	
	頭髄損傷	1	人工呼吸(1)
中毒	前腕切創による出血性ショック	1	
	睡眠剤中毒、誤嚥性肺炎	2	人工呼吸(2)
	農薬中毒	2	人工呼吸(2)、持続緩和式血液濾過CHDF(2)
その他	塩素消毒剤誤飲	1	
	失神	1	
	縦隔腫瘍による気道狭窄	1	人工呼吸(1)
	栄養失調による末梢神経障害	1	人工呼吸(1)

2013年度 他診療科との併診によるICU診療担当件数(総数36件)

傷病名	機械的臓器補助(件数)
広範囲熱傷	人工呼吸(5)
側弯症(術後呼吸管理)	人工呼吸(11)
低酸素性脳症	脳低体温療法(1)
急性呼吸不全	人工呼吸(19)

病理診断科／病理部

Division of Clinical Pathology

●連絡先…018-884-6200(病理部)

●ホームページ…<http://www.hos.akita-u.ac.jp/cdtf/pathology.html>

スタッフ構成
 教授 — 1名
 病院教授 — 1名
 講師 — 1名
 医員 — 1名



病理部長
 教授 大森 泰文
 Yasufumi Omori



病理副部長・病理診断科長
 病院教授 南條 博
 Hiroshi Nanjo



講師 吉岡 年明
 Toshiaki Yoshioka



医員 廣嶋 優子
 Yuko Hiroshima

診療内容・特色

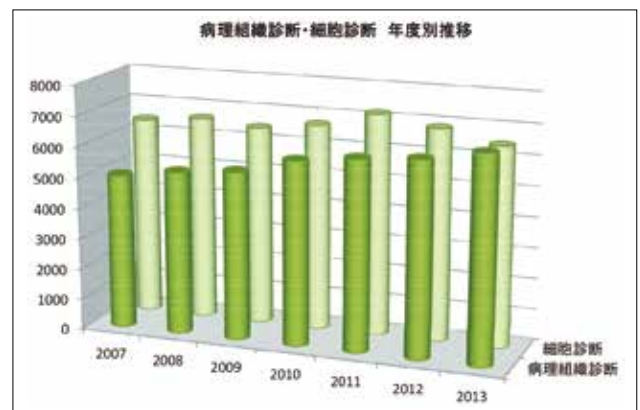
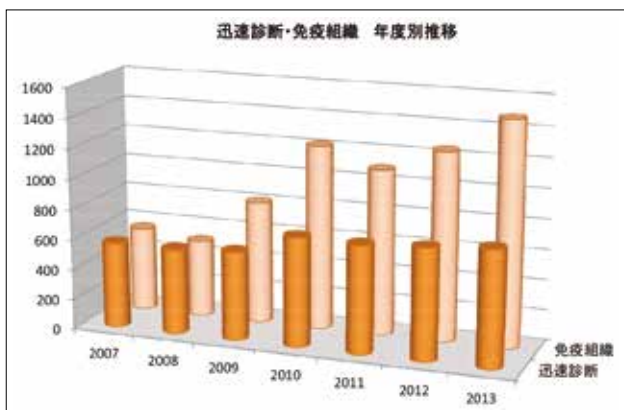
病理部は、患者さんから内視鏡などで採取された生検材料や、手術で摘出された検体に対する病理組織診断、また採取された体液・剥離細胞・穿刺細胞などに対する病理細胞診断を通して、臨床医療の一端を担う部門であり、病理専門医、細胞検査士、臨床検査技師などの協力のもと行われています。生検検体や手術検体はほぼ全科にわたって提出されています。また手術中に切除した腫瘍の性状や切除断端の情報を迅速に提供し、手術の方向性を確定させるために、術中迅速診断を行っています。凍結切片作製という特殊な技術と捺印細胞診を併用し、約15分で結果を手術場へ報告します。また2012年度より必要な場合は、秋田県と秋田大学で共同開発した迅速免疫染色システムも用いてより詳細な情報の提供も行っています。これらの診断結果や病理顕微鏡画像写真は、院内すべての電子カルテ上で確認できるようになっており、2010年からは、詳細な情報提供を目的に、病理組織標本取り込み装置を用いてデジタル化した画像(バーチャルスライド)も閲覧できるようになっています。これらの電子カルテ上での情報は、各科の症例検討会などでも利用されています。また私達は、病理学基礎講座の全面的な協力のもと、病理解剖も行っており、亡くなった患者さんの死因や問題点の病理学的な解明により、その情報が次の患者さんに反映されるように努めています。

取り扱う主な疾患

ほぼ全科にわたり、あらゆる疾患の病理診断に対応しています。

診療実績

年 度	迅速診断	免疫組織	病理組織診断	細胞診断	病理解剖	年 度	迅速診断	免疫組織	病理組織診断	細胞診断	病理解剖
2007	566	558	5,042	6,454	43	2011	715	1,097	6,207	7,197	26
2008	563	508	5,307	6,624	48	2012	737	1,250	6,345	6,891	35
2009	589	810	5,476	6,473	37	2013	767	1,484	6,679	6,492	30
2010	724	1,221	5,992	6,701	26						



歯科口腔外科

Dentistry and Oral Surgery

- 連絡先…018-884-6380(歯科口腔外科外来) 018-884-6188(医局)
- ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~shika/>

スタッフ構成

病院教授 — 1名
助 教 — 4名
医 員 — 3名



診療科長
病院教授 福田 雅幸
Masayuki Fukuda



病棟医長
助教 高野 裕史
Hiroshi Takano



医局長・外来医長
助教 中田 憲
Akira Nakata



助教 桑島 精一
Seiichi Kuwajima



助教 山崎 雅人
Masato Yamazaki

診療内容・特色

秋田県の歯科口腔外科疾患の三次医療機関、地域の中核病院として、顎口腔領域の外傷(上顎骨・下顎骨骨折)、炎症、腫瘍および嚢胞、顎関節疾患、埋伏智歯などの難抜歯、歯科インプラント、口唇口蓋裂、顎変形症などの治療を専門に行っています。最近では、外傷や腫瘍が原因の顎骨欠損に対して、顎骨を再建した後に、2012年度より保険導入された、広範囲顎骨支持型装置を応用した顎口腔機能の回復治療にも積極的に取り組んでいます。また、全身疾患を有する患者さんや障害者のために、入院下での歯科治療、全身疾患の治療上支障となる口腔疾患や全身疾患に関連する口腔内症状の発見・治療および口腔ケア指導によるQOL向上への支援も行っています。当科の1年間の新患数は約2,000名で、そのほとんどが他院からの紹介患者で占められていますが、秋田県は、他都道府県に比べて口腔外科専門医が極端に少なく、当科以外に口腔外科の専門施設がないことが影響しています。これからは、より多くの専門医を育成し、地域医療機関に派遣することにより、秋田県内の安定した病診連携体制を確立させることも重要な責務であると考えています。

取り扱う主な疾患

- ・顎顔面外傷
- ・口腔良性腫瘍
- ・先天奇形
- ・口腔粘膜疾患
- ・炎症
- ・嚢胞性疾患
- ・顎関節疾患
- ・唾液腺疾患
- ・口腔悪性腫瘍
- ・顎変形症
- ・神経性疾患
- ・歯科インプラント

診療実績

疾患別入院件数(2013年1月~12月)

疾患名	件数
顎 顔 面 外 傷	26
炎 症	28
口 腔 悪 性 腫 瘍	35
口 腔 良 性 腫 瘍	28
嚢 胞 性 疾 患	59
顎 変 形 症	21
先 天 奇 形	9
そ の 他	119
計	325

疾患別手術件数(2013年1月~12月)

疾患名	件数
顎 顔 面 外 傷	20
炎 症	8
口 腔 悪 性 腫 瘍	28
口 腔 良 性 腫 瘍	22
嚢 胞 性 疾 患	50
顎 変 形 症	21
先 天 奇 形	9
そ の 他	44
計	202



悪性腫瘍術後の顎骨再建と咬合再建



口唇形成術



顎変形症手術

中央検査部

Central Laboratory Division

●連絡先…018-884-6198(検査部受付・事務)

●ホームページ…http://www.hos.akita-u.ac.jp/cdtf/banking_inspection.html

スタッフ構成
部長 1名
副部長 1名
助教 1名
技師長 1名
副技師長 2名
主任技師 7名
検査技師 21名



部長
教授 廣川 誠
Makoto Hirokawa



副部長
准教授 植木 重治
Shigeharu Ueki



助教 面川 歩
Ayumi Omokawa



技師長
小山田 一
Hajime Oyamada



副技師長
鎌田 由美子
Yumiko Kamada



副技師長
小林 則子
Noriko Kobayashi

診療内容・特色

患者さんの健康状態を評価し治療を行うために、臨床検査は非常に重要な役割を担っています。この臨床検査を通して大学病院の高度な診療の支援を行う部門が中央検査部です。とりわけ自動化システムの導入によって、検査依頼情報から結果までを一元管理し、進行状況や精度の確認が可能となっており、迅速で質の高い検査データを提供しています。

臨床検査医と検査技師の協力体制のもと、一般的な検査から先進医療に関する検査まで幅広い業務が行われます。例えば採血では、プライバシーに配慮し、取り違えのない呼び出しシステムを採用し、生理機能検査では負担の少ない最新の気道抵抗測定装置(モストグラフ)を導入しています。夜間・休日は輸血部と合同で当直体制を整え、救急外来や入院患者さんの緊急検査に対応しています。スタッフは、全診療部門への支援だけでなく横断的な特長を生かし、インфекションコントロールチーム(ICT)や栄養サポートチーム(NST)、総合診療部の中核としても活躍しています。また、臨床検査に関する教育や、アレルギー免疫疾患・腎疾患など独自の研究開発のほか、感染症対策の地域連携システム(Akita-ReNICS)の管理・運営も行っています。

取り扱う主な業務

受付・事務・採血・血液検査・血液化学検査、一般検査、緊急検査、免疫血清・免疫化学検査、生理機能・超音波検査、微生物検査、細胞分子免疫学・遺伝子診断

診療実績

臨床検査件数の推移

区分	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
一般検査	394,242	400,195	463,209	469,716	483,115	497,612
血液検査	696,596	738,392	703,254	798,725	812,720	846,912
微生物検査	44,683	46,991	46,365	49,882	51,092	55,330
免疫検査	138,203	142,933	135,290	165,732	177,724	189,833
生化学検査	1,849,303	1,904,910	1,885,528	2,230,261	2,326,818	2,303,534
生理機能検査	22,523	22,966	20,903	24,060	24,788	24,223
合計	3,145,550	3,256,387	3,254,549	3,738,376	3,876,257	3,917,444



パルスオキシレーション法気道抵抗測定装置



採血ブースと呼び出しシステム

中央手術部

Central Operating Division

- 連絡先…018-884-6203(手術部受付)
- ホームページ…http://www.hos.akita-u.ac.jp/cdtf/central_operation.html

スタッフ構成	部 長	1名	であるが、手術部運営には以下の職員の協力を受けている。業務師(業務部より出向)1名、臨床工学士(臨床工学センターより出向)4名、診療放射線技師(中央放射線部より出向)1名、手術器械洗浄・組み立て・滅菌業務(中央材料部所属・外注職員)26名
	副 部 長	1名	
	看 護 長	40名	
	看 護 助 手	5名	
	医療機器清掃・運搬業務(臨床工学士以外)	1名	
	ク ラ ーク(外 注 職 員)	3名	
	清 掃 員(外 注 職 員)	2名	



部長
教授 西川 俊昭
Toshiaki Nishikawa



副部長
病院教授 堀口 剛
Takashi Horiguchi



看護師長
齋藤 千鶴子
Chizuko Saito

診療内容・特色

手術部の業務は、1)手術を受ける患者の安全を確保する、2)医師、看護師、コメディカルスタッフが快適で効率的な業務が行えるよう運営する、3)各診療科が望む最先端の医療が行える環境を整える、ことです。

平成26年7月22日より12室(1-7病棟の手術室も含む)が稼働可能となりました。

1.安全対策

- ・WHOの「安全な手術のためのガイドライン」のチェック機能を手術部情報システムに組み入れタイムアウトを行っています。
- ・手術1件につき1枚のオカレンス用紙を添付し、問題点を抽出しています。
- ・器械コンテナにICタグを、手術器械に2次元バーコードを刻印し、トレーサビリティ管理システムを導入しています。
- ・手術器械遺残防止対策として、手術器械の種類・数が記載された用紙に沿って器械をコンテナにセットし、手術終了直前に器械カウントを行っています。
- ・ガーゼ遺残防止対策として、X線撮影に写るガーゼを使用し、ガーゼカウンターへの穴に1枚ずつ入れることで数え間違いが起り得ない方法を用いています。
- ・開胸・開腹手術では手術終了時にX線撮影を義務付けています。

2.効率的な運営および設備

- ・予定手術は病院情報システムで申し込み、毎週水曜日に手術調整会議を行い決定し、その結果はシステムの端末で見ることができます。
- ・手術室の壁面に大型ディスプレイを取り付け、術前の画像診断結果、術中の術野動画、超音波動画、内視鏡動画、等を写し出せます。
- ・術野画像は、病院情報システムの端末や学内LANからも見ることができます。また、ハイビジョンでの術野画像の録画・再生を可能にしています。これらは教育や研究に役立っています。
- ・自動麻酔記録装置が設置され、すべての生体情報(呼吸・循環の情報、筋弛緩効果の程度、麻酔薬の血中濃度シミュレーション、等)が手術部情報システムで解析できます。
- ・すべての手術室の画像・生体情報は中央で監視できます。
- ・手術中の医事会計は自動化され、クラークのチェック後、病院医事システムに転送されています。
- ・手術部情報システムは病院情報システムを介して集中治療部情報システムと相互にデジタルで連携できるようにする予定です。



55インチディスプレイを壁面に設置



内視鏡手術支援ロボットによる手術



生体情報モニター・麻酔自動記録装置

診療実績

手術件数(2013年度)

	件数
全身麻酔(腰椎・脊椎麻酔、硬膜外麻酔などの併用を含む)	2,636
腰椎・脊椎麻酔(硬膜外麻酔などの併用を含む)	114
硬膜外麻酔単独	3
局所麻酔(伝達麻酔を含む)	1,493
計	4,246

手術時間、麻酔時間(2013年度)

	手術時間	麻酔時間
全身麻酔(腰椎・脊椎麻酔、硬膜外麻酔などの併用を含む)	8,650	12,084
腰椎・脊椎麻酔(硬膜外麻酔などの併用を含む)	120	186
硬膜外麻酔単独手術	5	8
局所麻酔手術(伝達麻酔を含む)	1,643	—
計	10,418	12,278

中央放射線部

Central Radiology Division

●連絡先…018-884-6305 018-884-6405

●ホームページ…http://www.hos.akita-u.ac.jp/cdtf/central_radiation.html

スタッフ構成	部長(教授) — 1名	副診療放射線技師長 — 2名
	副部長(准教授) — 1名	主任技師 — 8名
	助教 — 1名	技師 — 15名
	診療放射線技師長 — 1名	事務系補佐員 — 4名



部長
教授 橋本 学
Manabu Hashimoto



副部長
准教授 高橋 聡
Satoshi Takahashi



助教 古賀 誠
Makoto Koga



診療放射線技師長
小松 育
Hitoshi Komatsu

診療内容・特色

当部門は放射線科医師の指示のもと、放射線等を用いて様々な検査及び治療を行う部門であり、大きく分けて放射線画像診断部門と放射線治療部門に分かれています。

●放射線画像診断部門…各診療科から依頼を受けて、以下の検査を行います。

一般撮影検査・透視造影検査

いわゆるレントゲン写真を撮影することで胸部や腹部、骨などの情報を得ることができ、造影剤という薬剤の使用でリアルタイムに血管や臓器の形態を見ることができます。

X線CT検査

体の周囲から放射線を回転させて照射することで体の輪切りの画像(断層画像)を得ることができ、体内の細かい情報を三次元的に知ることができます。

核磁気共鳴画像検査(MRI)

放射線を使わずに大きな磁石と電波を使用することでCTでは得られない体内の質的な情報を画像化することができます。

血管造影検査

カテーテルという細い管を血管内に挿入して、そこから造影剤を注入して画像診断を行います。また、造影剤の代わりに抗がん剤や塞栓物質を注入することで、がんの治療や出血の治療を行うこともできます。

核医学検査

放射性同位元素(RI)という物質を体内に取り込ませ、特殊なカメラで撮影することで血流や代謝機能を画像化できます。また、RIの特異的な集積機序を利用して病気の治療をすることもできます。

●放射線治療部門…直線加速器という装置を使用してエネルギーの大きな放射線を作り出し、体内に照射(外照射)することで主にがんの治療を行う部門です。また体内に治療の機器を挿入して、体の内側から治療(内照射)することもできます。

取り扱う主な疾患

放射線画像診断部門:各診療科の疾患全般。

放射線治療部門:脳腫瘍、頭頸部がん、食道がん、前立腺がん、子宮頸がん、骨転移など主に放射線によく反応するがん。

診療実績(2013年度)

区分	患者数(件数)		
	入院	外来	計
一般撮影(単純)	43,740	28,468	72,208
一般撮影(造影)	2,534	567	3,101
血管造影検査	358	0	358
心臓カテーテル検査	455	0	455
X線CT検査	7,721	14,696	22,417
MRI検査	2,459	5,336	7,795
核医学検査(インビボ)	827	737	1,564
PET-CT検査	17	1,301	1,318
放射線治療	8,218	2,495	10,713
放射線治療計画	359	79	438
計	66,688	53,679	120,367



一般撮影装置



X線CT装置



核磁気共鳴画像装置



血管撮影装置



核医学検査装置



放射線治療装置

中央材料部

Central Supplying Division

- 連絡先…018-884-6306(中央材料室) 内線:2494 (SPDセンター)
- ホームページ…http://www.hos.akita-u.ac.jp/cdtf/central_material.html

スタッフ構成
 教授—1名
 准教授—1名
 看護師長—1名
 外部委託職員—27名
 (第二種滅菌技師 4名)



部長
 教授 西川 俊昭
 Toshiaki Nishikawa



副部長
 准教授 吉野 裕顕
 Hiroaki Yoshino



看護師長
 佐々木 和子
 Kazuko Sasaki

■業務内容・特色

中央材料部は、手術用器材をはじめ院内全ての再生器材の洗浄・消毒・滅菌を行う部門と、医療材料の管理を行うSPDセンターの2部門からなる中央診療部門です。業務は院内委託方式であり、特定機能病院である当院の中で行われる高度医療の安全を守り、必要な材料を過不足なく現場に届けることができるように働いています。2011年度より、滅菌物管理システムが導入され手術用器材のトレーサビリティが実施されています。2012年度は、それまで手術部が行っていた業者貸し出し器械(LI)の洗浄滅菌業務が委託となりました。実施方法について学習を重ね、10月から全科の貸し出し器械に対応しています。2012年12月には、県内に初めて手術支援ロボット「ダヴィンチ」が導入されたことから、インストゥルメントの洗浄滅菌も開始しました。中央材料部では、新しい機器や材料の購入についても安全性や価格等を検討し診療支援を行っております。

■主な設備と稼働実績(2013年度)

主要設備	台数	稼働回数	平均/月
自動ジェット超音波洗浄装置	3台	7,978回	665回
高圧蒸気滅菌装置	3台	3,087回	257回
酸化エチレンガス滅菌装置	2台	465回	39回
プラズマ滅菌装置(100S)	1台	1,011回	84回
プラズマ滅菌装置(N X)	1台	397回	33回



バーコードによる器材の読み取り



高圧蒸気滅菌装置

■SPDセンターの実績(2013年度)

対象部署	部署数
病棟	15部署
外来	24部署
中央診療部門	7部署



SPDセンター内



滅菌物管理システムの端末画面

■医療材料購入実績(2013年)

SPDセンター……………3億7,647万円
 直納品……………27億7,528万円

集中治療部

Intensive Care Unit

●連絡先…018-834-1111 (病院代表)

●ホームページ…http://www.hos.akita-u.ac.jp/cdtf/intensive_care.html

スタッフ構成

部長 ——— 1名

副部長 ——— 1名



部長

教授 山本 浩史

Hiroshi Yamamoto



副部長

助教 奥山 学

Manabu Okuyama

診療内容・特色

集中治療部は、内科系・外科系を問わず、呼吸、循環、代謝などの重篤な急性機能不全の患者を受け入れ、人工呼吸管理や循環管理などの集中治療を行う部門です。人工呼吸器、体外式膜型人工肺 (ECMO)、大動脈バルーンポンピング (IABP)、経皮的心肺補助装置 (PCPS)、血液浄化など、重要臓器の代行や補助を行う医療機器を用いて治療を行います。現在12床のICU (Intensive Care Unit) を稼働しています。

診療科医師、集中治療部医師、救急科医師は、毎朝の診療カンファレンスを通して患者の治療方針の検討を行っています。看護師は、集中治療部と救急部をひとつの看護単位として、看護師長を含む看護師53名と看護助手2名が配属されています。看護体制は「集中治療部設置のための指針 (日本集中治療医学会)」に従い、患者2名に看護師1名としています。

生体情報管理システム導入によって、ベッドサイドモニタや医療機器 (人工呼吸器や持続血液透析器など) から収集した測定値や波形は、すべてハードディスクに記憶され電子ファイル化されています。統合された患者情報をスタッフが共有し、緊急事態の速やかな発見や、過去の患者情報の再評価に役立っています。

学会施設認定と認定看護師等数

学会施設認定	日本集中治療医学会認定施設 (日本集中治療医学会)
	感染管理認定看護師 (日本看護協会) 1名
	集中ケア認定看護師 (日本看護協会) 1名
看護師	呼吸療法認定士 (日本呼吸療法医学会3学会合同) 3名
	BLSインストラクター (アメリカ心臓協会) 2名
	災害派遣チームDMAT (厚生労働省) 4名



取り扱う主な疾患

ICUでは多くの先端医療が実施されています。例: 蘇生後脳症に対する脳低体温療法。循環不全症例に対する心室補助装置。呼吸不全症例に対する体外式膜型人工肺 (ECMO)、一酸化窒素療法。肝腎不全症例に対する高流量血液濾過透析など。また従来の酸素療法と非侵襲的人工呼吸療法の間際に位置する新たな呼吸管理方法である、ネーザル・ハイフローシステムを取り入れています。



ネーザル・ハイフローシステム

診療実績

2013年度 ICU入室件数

	2013年度
入室件数総数	426
消化器内科/神経内科	4
循環器内科/呼吸器内科	38
血液内科/腎臓内科/リウマチ科	19
消化器外科	11
呼吸器外科/食道外科/乳腺・内分泌外科	64
小児外科	4
心臓血管外科	220
脳神経外科	6
小児科	8
産科婦人科	2
整形外科	11
皮膚科	5
泌尿器科	5
耳鼻咽喉科	1
歯科口腔外科	7
救急科	21

2013年度 診療実績

	症例数 (人)	
人工呼吸	256 (平均日数7.4日)	
体外式膜型人工肺 (ECMO)	3	
大動脈バルーンポンピング (IABP)	9	
経皮的 心肺補助 (PCPS)	10	
補助人工心臓 (VAS)	1	
血液浄化	持続緩徐式血液濾過	54
	血漿交換	6
	吸着式血液浄化	3
脳低体温療法	2	

救急部

Division of Emergency Medicine

●連絡先…018-834-1111 (病院代表)

●ホームページ…<http://www.hos.akita-u.ac.jp/cdtf/emergency.html>

スタッフ構成

部長(教授) — 1名
副部長(准教授) — 1名
助教 — 2名



部長
教授 清水 宏明
Hiroaki Shimizu



副部長
准教授 中永 士師明
Hajime Nakae



助教 五十嵐 季子
Toshiko Igarashi



助教 奥山 学
Manabu Okuyama

診療内容・特色

当院は、秋田県の救急医療体制の中で三次救急医療を担当する施設です。また災害医療体制の中では、県内唯一の基幹災害医療センターとして、重症患者を受け入れ治療する役割を担っています。この医療体制の中で、救急部は「病院の入口」としての機能を持ち、各診療科医師の協力のもと、24時間365日対応可能な診療体制を構築しています。緊急処置を有する患者の受け入れは、消防機関からの要請専用携帯電話で医師が応答しています。看護体制は集中治療部と連携した体制であり、昼夜を問わず2名の看護師が常勤をしています。

秋田県は2012年1月にドクターヘリを導入しました。当院は2014年5月から新ヘリポートでドクターヘリを受け入れています。新ヘリポート運用開始後、ドクターヘリによる搬送例は急激に増えています。今後も三次救急医療機関や基幹災害医療センターとしての期待にお応えできるよう努めていきます。

当院救急部は救急科専門医指定施設、熱傷専門医認定研修施設であり、これらの専門医取得を支援しています。また、厚生労働省指定の災害派遣医療チームDMAT (disaster medical assistance team) の編成においても中心的に関与しています。



診療実績

2013年度 救急部利用件数

	2013年度
救急部利用件数 総数	6,344
救急車搬送件数	1,558
ドクターヘリ搬送件数(ヘリポート未設営)	16
救急車、ドクターヘリ以外による来院件数	4,754

2013年度 救急部利用患者重症度(総数6,344件)

重症度	件数	割合
軽症	4,848	76.42%
中等症	1,071	16.88%
重症	197	3.11%
妊娠入院	177	2.79%
死亡	51	0.80%

2013年度 主な診療実績

	件数
来院時心肺停止	59
交通外傷	86
熱傷	8
急性薬物中毒	25
急性心筋梗塞	35
急性大動脈解離・腹部動脈瘤破裂	75

2013年度 診療科別利用患者件数(総数6,344件)

診療科	件数	診療科	件数
救急部	2,196	心臓血管外科	121
第一内科	消化器内科	脳神経外科	171
	神経内科	小児外科	70
第二内科	循環器内科	小児科	517
	呼吸器内科	精神科	258
第三内科	血液内科	整形外科	177
	腎臓内科	皮膚科	146
	リウマチ科	泌尿器科	216
糖尿病・内分泌内科	60	眼科	330
第一外科	94	耳鼻咽喉科	235
第二外科	呼吸器外科	歯科口腔外科	287
	食道外科	心療センター	1
	乳腺・内分泌外科	麻酔科	3
放射線科	3	腫瘍内科	36
産科婦人科	産科	総数	6,344
	婦人科		

輸血部

Division of Blood Transfusion

- 連絡先…018-884-6313 (TEL) 018-884-6251 (FAX)
- ホームページ…http://www.hos.akita-u.ac.jp/cdtf/blood_transfusion.html

スタッフ構成
 部長(医師) — 1名
 副部長(医師) — 1名
 臨床検査技師 — 5名
 事務 — 1名



部長
教授 高橋 勉
Tsutomu Takahashi



副部長
講師 藤島 直仁
Naohito Fujishima

臨床検査技師
主任 能登谷 武
Takeshi Notoya

臨床検査技師
佐藤 郁恵
Ikue Sato

臨床検査技師
長谷山 佳菜
Kana Haseyama

臨床検査技師
熊谷 美香子
Mikako Kumagai

臨床検査技師
佐々木 綾子
Ayako Sasaki

事務職員
吉田 由紀
Yuki Yoshida

診療内容・特色

輸血療法は適正に行われた場合には極めて有効性が高いことから年間100万人以上の患者さんに行われています。また、輸血には自分の血液(自己血)を使用する自己血輸血とボランティアドナーさんの献血から作られた同種血を使用する同種血輸血があり、我が国では年間500万人以上のドナーさんが献血に協力しています。

輸血部では必要な患者さんに安全な血液を速やかに供給するお手伝いをしています。日本赤十字社をはじめとした関係者の努力により、輸血療法の安全性は飛躍的に向上しましたが、同種血輸血では未だにB型肝炎ウイルスを主体とする輸血を介した感染症やアレルギー性の副作用を完全には回避することができていません。この点から当院では自己血輸血の使用を推進しています。自己血の場合にも採血時に血管迷走神経反応が起こる可能性がありますので、患者さんは採血前に水分や食事をしっかり摂ってからお越しください。

また、輸血部では輸血に関する輸血検査、自己血採血、血液製剤の保管、使用状況の管理のほかに、移植関連業務として造血幹細胞(末梢血幹細胞)の採取・保存や骨髄移植推進財団(骨髄バンク)や臍帯血バンクネットワークから提供を受けた移植片の調整や保管を行っています。

診療実績

製剤別輸血単位数(2013年度)

血液製剤	使用単位数
赤血球濃厚液	8,345
新鮮凍結血漿	5,780
濃厚血小板	31,645

検査件数(2013年度)

検査項目	件数
血液型検査	4,459
T & S	4,538
不規則抗体検査	295
妊婦スクリーニング	386
間接クームス試験	165
直接クームス試験	206
臍帯血液型検査	3
亜型の検査	27
HIV抗体検査	299
輸血後HIV抗体検査	197
HTLV-I抗体検査	268
抗A抗B抗体価	154
献腎HLA検査	2



自動細胞解析装置



自動輸血検査装置



自己血採血室

医療情報部

Division of Medical Informatics

- 連絡先…018-884-6049(医事課医療情報室)
- ホームページ…http://www.hos.akita-u.ac.jp/cdtf/medical_information.html

スタッフ構成
教授 — 1名
助教 — 1名
主査 — 1名
事務職員 — 3名
事務補佐員 — 4名



部長
教授 近藤 克幸
Katsuyuki Kondoh



副部長
助教 大佐賀 敦
Atsushi Ohsaga



主査
三浦 育子
Ikuko Miura



事務職員
佐川 静子
Shizuko Sagawa



事務職員
大場 浩明
Hiroaki Ohba



事務職員
杉澤 明
Akira Sugisawa

■業務内容・特色

当院では院内のほとんどの業務が病院情報システムを介して行われており、24時間365日安定した情報システムの運用が不可欠なものとなっています。この病院情報システムの構築や管理・運用が主な業務となります。現在、クライアント端末は950台を超え、携帯端末(PDA)も296台へと増設されています。サーバ室に設置されたサーバ・コンピュータも160台以上となり、各種機器を含め2,000台以上の機器から構成されています。また、CT、MRI等の画像参照用の高精細モニタの整備のほか、各部門と連携し各種機能の拡張を行っています。



電算室に設置のサーバ・コンピュータ

本院の情報ネットワークでは、信頼性と通信性能を高めるため、「VSS (Virtual Switching System)技術」を採用しています。これは、平常時は2台の機器で動作し、一方に障害が生じた場合、その機器を切断し、残りの1台のみで処理を続けるものです。大規模病院等で一般的な「予備機への自動切り替え」方式と異なり、平常時は従来の2倍の能力で通信を処理できるため、日々成長し続ける診療データや、大規模な医用画像や動画データ等にも十分対応できるものとなっています。

■電子タグ・ユビキタス技術の医療分野への応用

当院では入院患者のリストバンドおよび注射薬剤・血液製剤に取り付けた電子タグを携帯端末(PDA)で読み取り照合する「ベッドサイド安全管理システム」を構築し、運用しています。このシステムでは、一般的なバーコードによる照合と比較して、半分の時間で認証確認が可能となっています。確認行為に掛かる煩わしさの軽減と、情報機器による客観的な確認による医療安全の両立が実現され、総務省「u-Japan大賞」の「2007年度・大賞」を受賞しています。



RFID付患者用リストバンドと携帯端末(PDA)



総務省u-Japan大賞表彰状

現在、これを発展させ、患者・医療者の位置検出技術と組み合わせることで、医療者がベッドサイドで点滴台に注射薬剤をセットするという通常の医療行為と同時に認証確認が可能な点滴台一体型の認証装置(点滴台認証装置(病棟運用モデル))の實現を目指し、取り組んでいます。すでに診療支援システムと注射オーダーや実施記録とのシステム連携も實現しており、一部の病棟で運用し評価を行った結果を踏まえ、性能の改善を行っています。



点滴台認証装置(病棟運用モデル)

また、携帯端末により院内各所で電子タグを読み取れるインフラを活用し、上記の入院注射・血液製剤の認証に加え、外来化学療法での患者・薬剤認証、病棟ベッドサイドの生体モニタの患者登録、滅菌器材の使用患者登録へも応用されています。

血液浄化療法部

Division of Blood Purification

●連絡先…018-884-6307(透析センター)

●ホームページ…http://www.hos.akita-u.ac.jp/cdtf/blood_purification_treatment.html

スタッフ構成

部長(教授) — 1名
副部長(講師) — 1名
臨床工学技士 — 2名
透析室看護師 — 3名



部長

教授 羽瀨 友則

Tomonori habuchi



副部長

講師 齋藤 満

Mitsuru Saito



臨床工学技士

小林 浩悦

Kouetsu Kobayashi



臨床工学技士

伊藤 由乃

Yukino Ito



透析室看護師

伊藤 恵子

Keiko Ito



透析室看護師

高橋 史恵

Fumie Takahashi



透析室看護師

京野 真子

Mako Kyono

診療内容・特色

高齢化や糖尿病の増加に伴い末期腎不全患者数は増加の一途を辿り、本邦で維持血液透析療法を受けておられる患者さんは2011年について30万人を超えました。秋田県でも同様に血液透析患者数は増加しており、今後ますます血液浄化療法の需要が高まることが予想されます。また難治性疾患に対する病因関連物質の除去を目的とした治療法・治療機器の進歩により、血漿交換療法が様々な疾患に応用されるようになりました。

血液浄化療法部では、以下の取り組みを各科との連携のもと、積極的に行っています。

- ① 外来・入院末期腎不全患者の維持血液透析療法
- ② 腎移植患者に対する抗体除去療法
- ③ 急性期重症患者に対する持続血液濾過透析療法
- ④ 各種難治性疾患(代謝疾患、自己免疫疾患、神経疾患、薬物中毒、エンドトキシンショックなど)に対する血漿交換療法
- ⑤ 潰瘍性大腸炎に対する白血球・顆粒球除去療法
- ⑥ 難治性腹水に対する腹水濾過濃縮
- ⑦ バスキュラーアクセス手術、経皮的血管拡張術などのインターベンション治療、透析合併症治療

研究: 当院での豊富な腎移植件数を生かした抗体除去療法を中心とした至適脱感作プロトコルの検討とその合併症対策など。

取り扱う主な疾患(病態)

慢性・急性腎不全、敗血症性ショック、劇症肝炎、薬物中毒、潰瘍性大腸炎、高LDL血症、自己免疫疾患(グッドパスチャー症候群など)、神経疾患(重症筋無力症など)、血液疾患(血栓性血小板減少性紫斑病など)、難治性腹水など。

診療実績(2011～2013年)

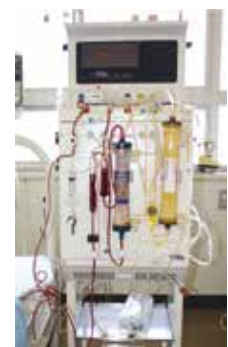
	血液透析療法	血漿交換療法 (血漿交換、二重膜濾過、 血漿分離交換法など)	持続緩徐式 血液浄化法	顆粒球 除去療法	エンドトキシン 吸着	腹水濾過濃縮 再静注法	合計
2011.1.1～12.31	2,381	52	108	45	1	21	2,608
2012.1.1～12.31	2,375	81	51	79	0	10	2,596
2013.1.1～12.31	2,462	94	101	90	0	6	2,753



透析室



水質浄化・管理システム



二重膜濾過血漿分離交換法

中央病歴部

Division of Medical Records

- 連絡先…018-884-6485(病歴室)
- ホームページ…http://www.hos.akita-u.ac.jp/cdtf/central_case_history.html

スタッフ構成

当部は、部長・副部長のもとに医事課病歴グループ事務職員3名が兼務体制で診療録管理全般を担っています。2名の事務職員は診療情報を扱う専門資格(診療情報管理士)を有し、安全で精度の高い診療録・診療情報管理を目指して業務を遂行しています。診療録そのものの払出・受領・貸出などの日常業務は委託社員9名が業務に当たっています。



部長
教授 近藤 克幸
Katsuyuki Kondoh



副部長
准教授 齊藤 元
Hajime Saito



診療情報管理士
総括主査 平元 守之
Moriyuki Hiramoto



診療情報管理士
須田 智美
Tomomi Suda



事務系補佐員
進藤 裕子
Yuko Shindo

診療内容・特色

中央病歴部は、外来・入院診療録(カルテ)の管理・保管を行っている部署です。特に、外来診療録は、自動化された保管庫で管理し、予約等に伴い自動的にカルテが選り出されるようになっています。現在、外来棟改修工事のため人手(メッセンジャー)による搬送となっておりますが、各診療科へ搬送機を利用して診療録を運ぶことができるようになっておりますので、1日1,000人を超える患者さんの受診にも迅速に対応できるようになっています。



電動カルテ保管庫



搬送機

診療実績(活動実績)

2012年度疾病統計(転科単位)

入院診療録の臨床病名を世界保健機関(WHO)が定める国際疾病分類(ICD-10)に準じて分類をし各種統計・資料作成を行い、医療の質向上に役立つ情報提供が出来るように取り組んでいます。秋田県のがん死亡率は2007年以降全国第1位となっております。当院の2012年度の退院患者による疾病統計にも反映されており、退院患者全体の約4割が新生物(がん)による入院でした。

2012年度疾病統計(転科単位)

ICD10 大分類による疾患分類	件数	比率
新生物	3,887	40.4%
眼および付属器の疾患	744	7.7%
循環器系の疾患	738	7.7%
消化器系の疾患	632	6.6%
妊娠、分娩および産褥	564	5.9%
尿路性器系の疾患	539	5.6%
損傷、中毒およびその他の外因の影響	378	3.9%
筋骨格系および結合組織の疾患	371	3.9%
呼吸器系の疾患	286	3.0%
内分泌、栄養および代謝疾患	247	2.6%
精神および行動の障害	243	2.5%
神経系の疾患	225	2.3%
先天奇形、変形および染色体異常	211	2.2%
周産期に発生した病態	129	1.3%
健康状態に影響をおよぼす要因	97	1.0%
皮膚および皮下組織の疾患	96	1.0%
感染症および寄生虫症	86	0.9%
耳および乳様突起の疾患	67	0.7%
血液・造血器疾患、免疫機構の障害	52	0.5%
症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見	29	0.3%
傷病および死亡の外因	3	0.0%
総計	9,624	100.0%

周産母子センター

Perinatal Medical Center

- 連絡先…018-884-6368(外来) 018-884-6163(医局)
- ホームページ…http://www.hos.akita-u.ac.jp/cdtf/mother_child_center.html

スタッフ構成
 准教授 — 1名
 助教 — 1名
 医員 — 3名



センター長
 教授 寺田 幸弘
 Yukihiro Terada



副センター長
 准教授 佐藤 朗
 Akira Sato

診療内容・特色

切迫早産、妊娠高血圧症候群、胎児先天性疾患、母体合併症妊娠などのハイリスク妊娠の周産期医療(妊娠・分娩・産褥管理、新生児管理)を行っています。小児科、小児外科、NICU、各科、各部門と連携を取り、胎児先天性疾患を有する妊娠、専門性が高い各科の疾患の合併症妊娠などを県内の各施設より受け入れています。2014年4月より地域周産期母子医療センターに認定され、総合・地域周産期母子医療センター、周辺施設と連携を取りながら、緊急度、重症度が高い母体・胎児疾患の救急搬送・紹介の受入を常時行っています。また、近年では、周辺地域の分娩取扱い施設の減少により、正常妊娠・分娩の取扱い数が増加しています。そのため、正常妊婦・褥婦・新生児のケアにも力を注いでいます。外来診療は、月、火、水、金曜が産科外来、木曜が助産師1ヶ月健診、助産師母乳外来です。新患は月、火、水曜で、地域連携室を介したFAX予約制です。羊水染色体検査は予約制です。日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医による診療を基本としています。病棟診療は、月曜午後が教授回診、月曜13時30分から小児科NICU医師、助産師、看護師、臨床心理士とのカンファレンスを行っています。



CRL



新生児室



超音波器機

取り扱う主な疾患

産科疾患

切迫早産、早産、前期破水、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、羊水過多・過少、絨毛羊膜炎、母体産科出血

胎児疾患

胎児先天性疾患(胎児先天性心疾患、染色体異常、消化管疾患、腎疾患、水頭症、先天性横隔膜ヘルニア、胎児腫瘍)、胎児水腫、胎児感染

母体合併症妊娠

糖尿病合併妊娠、高血圧合併妊娠、心疾患合併妊娠、血液疾患合併妊娠、内分泌疾患合併妊娠、悪性疾患合併妊娠、血液型不適合妊娠

新生児黄疸

診療実績

2013年度

1. 分娩数	分娩母体数	349	
	分娩児数	358	双胎9
2. 新生児出生体重別分布	出生体重(g)	出生児数	(%)
	~999	1	0.3
	1,000~1,499	7	2.0
	1,500~2,499	76	21.2
	2,500~3,999	273	76.3
	4,000~	1	0.3
	計	358	100.0
3. 分娩様式別分布	分娩様式	分娩児数	(%)
	帝王切開術	116	32.4
	自然分娩	195	67.6
	吸引分娩	45	
	鉗子分娩	0	
	骨盤位分娩	2	
計	358	100.0	

総合診療部

General Clinical Division

- 連絡先…018-834-1111 (病院代表)
- ホームページ…http://www.hos.akita-u.ac.jp/cdtf/integrated_diagnosis.html

スタッフ構成

部長(教授) — 1名
副部長(講師) — 1名
助教 — 1名
なお、複数の内科系指導医、及び初期研修医、非常勤医師、看護部、医事課、クラークの協力により運営されている。



部長
教授 廣川 誠
Makoto Hirokawa



副部長
講師 高橋 直人
Naoto Takahashi



助教 面川 歩
Ayumi Omokawa

診療内容・特色

総合診療部は一次・二次医療機関にて診断が難渋している患者さんたちを対象として診療を行っています。当院は特定機能病院ですので専門診療科宛の紹介状を持って受診される患者さんがほとんどですが、どの科を受診して良いかわからない場合は総合診療部で初期診療を行っています。最近では、体重減少をはじめとする臓器横断的な症状を訴えて、かかりつけ医の紹介状をもって総合診療部を受診される方が増えてきました。総合診療部を受診される患者さんたちの疾患は日常よく見られる病気から稀な病気まで様々ですが、診断がついた後は適切な専門診療科に紹介して治療を受けていただきます。総合診療部で診療を行った患者さんたちのより正確な診断と研修医へのフィードバック、医学生の教育のために、毎週ケースカンファレンスを行っています。

診療実績

	受付総患者数
2010年度	178人
2011年度	229人
2012年度	263人
2013年度	528人



亀田ファミリークリニック館山の岡田唯男院長先生を迎えて総合診療のDr.Gセミナー集合写真

治験管理センター

Pharmaceutical Management Center

●連絡先…018-884-6216

●ホームページ…<http://www2.hos.akita-u.ac.jp/chiken/index.html>

スタッフ
構成

センター長 — 1名
副センター長 — 1名
治験コーディネーター — 5名
治験薬管理 — 1名
事務局 — 5名
(ネットワーク事務含む)



センター長
教授 佐藤 滋
Shigeru Satoh



副センター長
副薬劑部長 佐々木 克也
Katsuya Sasaki

診療内容・特色

臨床試験は医学の進歩に欠かせないものであり、政府も国内での積極的な施行を奨励しています。国立大学法人としての本学の務めとして臨床試験を積極的に行うことは今後さらに重要になります。

当センターは、「医薬品の臨床試験の実施の基準」(以下GCPという)を遵守し、治験や製造販売後臨床試験に関する業務を円滑に行うため、2001年に設置されました。治験コーディネーター(CRC)、治験薬管理担当者、治験事務局を担当する専門のスタッフで構成されており、有効で安全な新薬を一日でも早くお届けできるよう、日々の業務を行っております。2014年7月1日現在、治験34件、製造販売後臨床試験4件を実施しています。治験実施件数に占める国際共同治験の割合が42%、抗がん剤治験の割合が44%で、科学的にレベルの高い治験を実施するための環境が整っております。また、2010年より秋田県内の治験の活性化を目的に設立された、あきた治験ネットワークの事務局業務を担当しております。

● 治験コーディネーター(CRC)

CRCは、患者さんが安心して治験にご協力いただけるよう患者のケア、来院日の管理をしています。また、医師や他部門のスタッフ、治験依頼者(製薬会社)との連携を図り、スムーズに治験が実施できるよう調整をしています。

● 治験薬管理

治験薬は、患者さんに安全な状態で使っていただくため、保管場所や温度、使用期限、取扱い方法等、GCPや治験薬管理手順書に則って、適切に管理しています。

● 治験事務局

治験事務局では、治験依頼者からの申請資料の受け付け、治験審査委員会(IRB)の開催、治験依頼者との契約の締結、それらに関わる書類の整理・保管等、あらゆる事務業務を行っています。

活動内容

【治験実績】終了した治験の実施率

年 度	終了治験数	契約症例数	実施症例数
2010	9	42	21
2011	4	18	9
2012	3	21	21
2013	6	21	8



患者さんとの面談場面

【対象疾患】現在実施している治験の対象疾患(2014年7月1日現在)

腎細胞癌、慢性骨髄性白血病、悪性リンパ腫、糖尿病黄斑浮腫、糖尿病、本態性血小板血症、急性リンパ性白血病、HDMアレルギー性鼻炎、骨髄線維症、前立腺癌、統合失調症、アルツハイマー認知症、小児糖尿病、多発性骨髄腫、乾癬、特発性ストレス・レッグス症候群、腎移植(日光感作療法)、脊髄小脳変性症、膀胱癌、突発性過眠症、急性骨髄性白血病、うつ病

臨床工学センター

Clinical Engineering Center

●連絡先…018-884-6224

●ホームページ…http://www.hos.akita-u.ac.jp/cdtf/medical_equipment.html

スタッフ
構成

センター長(教授) — 1名
副センター長(病院教授) — 1名
臨床工学技士 — 6名
委託職員 — 2名



センター長
教授 山本 浩史
Hiroshi Yamamoto



副センター長
病院教授 堀口 剛
Takashi Horiguchi

■活動内容

医療機器を中央管理し、医療機器の貸出、保守点検、修理などを行うとともに、臨床工学技士の適正な配置と専門的技術の提供を通して、医療機器の安全および効率的な運用を図ることを目的として設置されました。

臨床工学センターでは、シリンジポンプ273台、輸液ポンプ207台、人工呼吸器39台、除細動器26台、AED11台、逐次型空気圧マッサージ器63台、電気メス2台を中央管理し保守点検を行っています。その他に、血液浄化療法部では、透析用監視装置、逆浸透水处理装置、透析液監視装置などを、中央手術部では、麻酔器、呼気ガスモニター、手術台など様々な機器の保守点検を行っています。

業務内容は、手術部では、人工心肺装置、手術支援ロボット ダ・ヴィンチ(da Vinciサージカルシステム)、自己血回収装置、マイクロ顕微鏡、内視鏡などの準備や操作を行っています。ICUでは、持続緩除式血液浄化装置の操作、人工呼吸器の始業点検などを行っています。血液浄化部では、人工透析療法、その他あらゆる血液浄化療法に関わっています。

■活動体制

中央手術部に臨床工学技士4名、血液浄化療法部に臨床工学技士2名、委託職員2名を配置し、それぞれの部門で業務を行い、要請があった場合などにICUや病棟でも業務を行っています。

■臨床工学センター管理機器一覧 2014年8月現在

ME管理機器一覧	台数
シリンジポンプ	273
輸液ポンプ	207
人工呼吸器	39
除細動器	26
AED	11
逐次型空気圧マッサージ器	63
電気メス	2
合計	621



■終業点検・定期点検の点検回数一覧・2013年度

機器分類名	輸液ポンプ	シリンジポンプ	人工呼吸器	除細動器(AED含)	電気メス
終業点検	4,586	3,964	536	1	33
定期点検	213	282	57	52	*0
修理	1	2	7	0	0
計	4,800	4,248	600	53	33

*電気メスの定期点検はメーカーで行っています。

移植検査センター

Center of Histocompatibility and Immunogenetics

- 連絡先…018-884-6313(輸血部)
- ホームページ…http://www.hos.akita-u.ac.jp/cdtf/transplant_inspection.html

スタッフ構成

センター長 — 1名
副センター長 — 1名



センター長
教授 高橋 勉
Tsutomu Takahashi



副センター長
特任准教授 奥山 慎
Shin Okuyama

■業務内容・特色

臓器移植における臓器提供者(ドナー)と患者(レシピエント)の免疫学的な相性である組織適合性は、HLA (human leukocyte antigen)やABO血液型によって決まります。特にHLAは最も重要な因子です。このHLAの組み合わせは数千種類に及びます。単一民族であるわが国でも、合致する割合は10万人に1人です。当センターでは、臓器移植希望者のHLA検査ならびにクロスマッチ試験用血清の保管、臓器提供者のHLA検査などの検査業務を行っております。

2011年に新たな検査システムであるLUMINEX®を導入しました。さらに、次世代クロスマッチ検査の標準となるはずのフローサイトメトリーについても整備を進めていきます。そして、秋田県内の移植医療をサポートし、移植成績の向上に貢献することを目指します。

■献腎移植登録者のHLA検査件数と血清保管検体数の年次推移

	献腎移植登録HLA型検査件数	県内登録更新者血清保管検体数	県外登録更新者血清保管検体数
2003年度	—	33	249
2004年度	—	85	710
2005年度	5	83	706
2006年度	6	83	685
2007年度	8	77	664
2008年度	4	75	642
2009年度	3	70	598
2010年度	1	65	552
2011年度	0	60	581
2012年度	3	60	590
2013年度	2	57	583



自動DNA抽出装置



サーマルサイクラー(核酸増幅装置)



LUMINEX®システム

総合臨床教育研修センター

Center for Medical Education and Training

●連絡先…018-884-6233(卒後臨床研修業務担当)

018-884-6427(シミュレーション教育センター受付)

018-884-6430(あきた医師総合支援業務担当)

●ホームページ…<http://career.hos.akita-u.ac.jp/kenshuu/>(卒後臨床研修関係)

<http://career.hos.akita-u.ac.jp/sim/>(シミュレーション教育センター関係)

<http://akitamd-support.com/>(あきた医師総合支援センター関係)

スタッフ構成
センター長—1名
副センター長—3名
特任講師—2名
技術職員—1名



センター長
教授 長谷川 仁志
Hitoshi Hasegawa



副センター長
教授 南谷 佳弘
Yoshihiro Minamiya



副センター長
教授 安藤 秀明
Hideaki Andoh



副センター長
講師 高橋 直人
Naoto Takahashi



特任講師 大嶋 重敏
Shigetoshi Ohshima



特任講師 守時 由起
Yuki Moritoki

■業務内容・特色

当センターは、医学・医療教育／研修における大学各講座の分野横断的統合と、地方自治体及び関係医療機関、国内外の関連教育機関、住民との密接な連携強化により、これからの理想的な医師・医療者の育成教育・研修ニーズに対応した卒前・卒後教育／研修(多職種連携教育、生涯教育)体制構築をシームレスに発展させることを目的にいくつかの部門が統合する形で開設されました。

医師・医療者育成教育／研修環境の充実と、教育力・人間力ある優れた医療人の育成を通して、医療レベルの<最先端(高度医療)>から<最前線(地域包括ケア)>にわたる向上を目指します。これらの目的を達成するため、学内各講座および秋田県内から国内外医療機関に及び関連部門と連携して、次の業務を実施いたします。

- (1) 卒前・卒後の医学教育・多職種連携教育(IPE: inter professional education)、医療職を超えた連携教育(trans professional education)の充実
- (2) 卒後臨床研修、専門育成教育、医師のキャリア支援、生涯教育
- (3) 秋田県内～国内外の医療機関と連携したシミュレーション教育の充実・普及
- (4) 男女共同参画推進
- (5) あきた医師総合支援センターとの連携事業
- (6) シミュレーション教育センターの管理運営
- (7) 次世代を担う小中高生への入学前教育

内視鏡・超音波センター

Endoscopy and Ultrasonography Center

●連絡先…018-884-2016

●ホームページ…http://www.hos.akita-u.ac.jp/cdtf/kougaku_iryuu_sinnryoubu.html

スタッフ構成
センター長—1名
副センター長—2名
他 消化器内科医師、
循環器内科医師、
呼吸器内科医師、
技師、看護師



センター長
教授 大西 洋英
Hirohide Ohnishi



副センター長
准教授 神 万里夫
Mario Jin



副センター長
准教授 渡邊 博之
Hiroyuki Watanabe

診療内容・特色

内視鏡・超音波センターでは、内視鏡と超音波診断装置を用いて各種消化器、循環器疾患の診断と治療を行っています。

- 消化器分野では、各種指導医・専門医をはじめ機器の取扱いに習熟した医師の指導のもと、消化器がんの早期発見と適切な治療方針決定をサポートする特殊光内視鏡、ハイビジョン拡大内視鏡、超音波内視鏡および腹部超音波装置等を用いた診断、また内視鏡を使用した各種治療を行っています。また、先進医療や臨床試験治験にも取り組んでおります。
- 心エコー検査は心電図、レントゲンと並んで循環器診療に欠かせない検査の一つです。心臓の形態と血行動態がリアルタイムに評価できることから、循環器疾患の診断、治療方針決定においてなくてはならない検査といえます。また、被爆がなく非侵襲的で患者さんの負担が非常に少ないこともメリットの一つです。三次元心エコー図法、スペックルトラッキング法のような新しい手法を用いた詳細な心機能評価も取り入れています。また、頸動脈、下肢動脈、下肢静脈などの血管エコー検査も行っています。

取り扱う主な疾患

- 食 道…食道癌、食道炎、食道静脈瘤、食道狭窄など
- 胃・十二指腸疾患…胃癌、胃潰瘍、胃ポリープ、胃炎、十二指腸潰瘍、十二指腸腫瘍など
- 小 腸…小腸腫瘍、小腸ポリープ、クローン病、小腸出血など
- 大 腸…大腸癌、大腸ポリープ、潰瘍性大腸炎など
- 肝臓、膵臓、胆道…慢性肝炎、肝臓がん、膵臓癌、胆石症、胆管がん、胆管結石症など
- 心 臓…心臓弁膜症、心筋症、先天性心疾患、虚血性心疾患、
- 血 管…深部静脈血栓症、閉塞性動脈硬化症、経頸動脈狭窄症

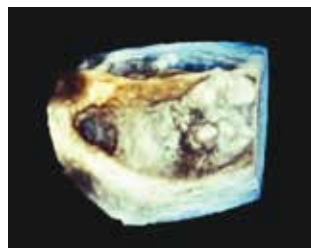
診療実績

2013年度の検査・治療件数

検査内容	件数
上部消化管内視鏡検査	3,549
下部消化管内視鏡検査	1,297
消化管超音波検査	170
上部消化管内視鏡治療(ESD)	150
下部消化管内視鏡切除術(ESD, EMR)	172
内視鏡的胆膵肝造影	318
腹部超音波検査	2,487
心臓超音波検査	3,337
経食道超音波検査	51



上部消化管内視鏡検査



リアルタイム三次元経食道心エコーによる左房から見た僧帽弁・左心耳



心臓超音波検査



穿刺吸引細胞診

遺伝子医療部

Division of Genetic Counselling

- 連絡先…018-884-6271 (受付直通 9:00 ~ 15:00)
- ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~syouni/ideniryoy/>

スタッフ構成

診療科長(教授)	1名
准教授	1名
講師	1名
助教	1名
臨床心理士	1名
看護師長	1名
看護士	1名
医事課長	1名
医事課長補佐	1名



部長

教授 高橋 勉

Tsutomu Takahashi



副部長

准教授 熊谷 仁

Jin Kumagai



講師 高橋 郁子

Ikuko Takahashi



助教 野口 篤子

Atsuko Noguchi



看護師長

佐々木 郁子

Ikuko Sasaki



臨床心理士

伊藤 麻里

Mari Ito

診療内容・特色

患者さんへの遺伝に関する情報提供と心理支援を目的とした、遺伝カウンセリングを行っています。カウンセリングは、日本人類遺伝学会の認定する臨床遺伝専門医が担当し、幅広い領域の相談に対応するよう努めています。

遺伝学的検査の施行が望ましい場合には、適宜、他大学への連携／患者紹介、各診療科研究室での診断、他施設(または外注)での検索依頼なども行い、引き続き意思決定のサポートをしています。

取り扱う主な疾患

染色体異常、各種単一遺伝子疾患(代謝内分泌異常、神経筋疾患、家族性腫瘍、耳鼻科眼科疾患など)、多因子遺伝疾患、周産期異常など。年齢や対象疾患の制限は設けていません。

診療実績

2014年度のカウンセリング疾患(各1～数例)

染色体異常:不均衡型相互転座、ダウン症候群、13/14ロバートソン転座 染色体モザイク(45X、46XX、47XXX)保因者妊娠

先天代謝異常症:Wilson病、オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症、ミトコンドリア病

骨代謝疾患:低フォスファターゼ血症

神経筋疾患:筋緊張性ジストロフィー、Duchenne型筋ジストロフィー

周産期関連:不育症、不妊、羊水検査の説明、高齢妊娠、胎児臍帯ヘルニア、横隔膜ヘルニア

精神疾患:学習障害、精神運動発達遅延

先天異常:口蓋裂、先天性巨大色素性母斑

耳鼻科疾患:非症候性難聴、症候性難聴(Waardenberg症候群、糖尿病合併例)

腫瘍性疾患:Von Hippel Lindau病、Lynch症候群、家族性多発腫瘍確定診断前

その他:3例

相談内容は、周産期では出生前診断や羊水検査に関する相談、次子の再発危険率について、成人領域では遺伝性疾患の発症前診断や成人発症リスクについて、などが多くありました。また当院耳鼻咽喉科では先天性難聴の遺伝子診断を行っており、説明の際には耳鼻咽喉科の先生にご一緒させていただく機会が増えています。



腫瘍情報センター

Center for Cancer Registry and Information Services

●連絡先…018-884-6286(登録室)

●ホームページ…<http://www.hos.akita-u.ac.jp/onco/>(秋田県がん診療連携協議会)

スタッフ構成
特任教授 — 1名
特任助教 — 1名
専門職員 — 4名



センター長
特任教授 本山 悟
Satoru Motoyama



副センター長
特任助教 井上 正広
Masahiro Inoue



専門職員
吉田 めぐみ
Megumi Yoshida



専門職員
安倍 めぐみ
Megumi Abe



専門職員
柳田 美咲
Misaki Yanagida



専門職員
吉田 美穂子
Mihoko Yoshida

■診療内容・特色

国のがん対策推進計画の2大目標である①10年以内になんによる死亡者を20%減少させる②全てのがん患者およびその家族の苦痛の軽減ならびに療養生活の質の維持向上の達成に貢献することを目標として活動しています。

1. 院内がん登録

秋田大学医学部附属病院の院内がん登録を行っています。ここでは各種がんの罹患、病期、治療法、生存状況などが登録されます。同時に、秋田県内のがん拠点病院等から収集した院内がん登録データをもとに、秋田県全体のがんの実態を解析しています。

2. 秋田県がん診療連携協議会の運営

秋田県がん診療連携協議会は2006年2月1日付厚生労働省健康局長通知「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」に基づいて、2007年7月23日に秋田大学医学部附属病院に設置されました。秋田県内のがん診療連携体制の強化とがん医療の均てん化を図ることを目標としています。当センターはその運営業務に積極的に関与します。

(<http://www.hos.akita-u.ac.jp/onco/>)

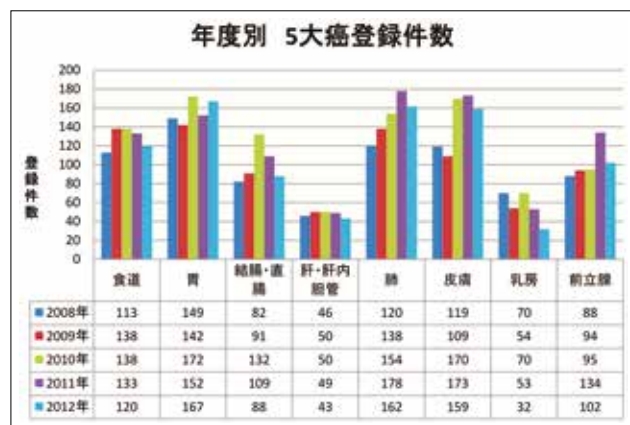
3. がん登録研修

秋田県内でがん登録に従事する医療スタッフを対象としたがん登録研修会を実施しています。

■取り扱う主な疾患

全がん腫

■診療実績



相談支援センター・がん相談支援センター

Consultation Support Center

- 連絡先…018-884-6283 018-884-6238 018-884-6564(FAX)
- ホームページ…<http://www.hos.akita-u.ac.jp/soudan/index.html>

スタッフ構成
 センター長(准教授) — 1名
 副センター長(准教授) — 1名
 副センター長(看護師) — 1名
 看護師 — 4名
 M S W — 3名
 事務職員 — 4名



センター長
 准教授 神林 崇
 Takashi Kanbayashi



副センター長
 准教授 後藤 隆
 Takashi Goto



副センター長
 看護師長 佐藤 佐智子
 Sachiko Sato



相談支援センターのロゴマーク

■沿革と業務体制

相談支援センターは2002年4月、総合診療部における地域医療への積極的貢献、県内の医療機関との連携強化、疾病・病診連携を推進することを目的に設置された「総合診療部 地域医療連携室」を前身としています。2007年1月、秋田県がん診療連携拠点病院に指定されたことを受け、同年6月に医療相談室・地域連携室・がん情報提供部門が相談支援センターとして統合され、「地域医療連携業務」「医療相談」「がんに関する情報提供」を一部署で行うこととなりました。

開設時から人員を増やし、2014年は看護師5名・MSW3名で相談対応を行っています。

県内唯一の特定機能病院・がん診療連携拠点病院として、相談支援・情報収集・情報提供を行い、医療サービスと介護サービスの切れ目ない提供や役割分担・連携のため、在宅医療連携外来の協力や退院転院支援などの地域連携と情報伝達などに力を注いでいます。

■センターの業務内容

相談業務

- *がん相談とがん情報提供
- *地域連携の情報収集と紹介
- *セカンドオピニオン調整と紹介
- *療養上の相談
- *就労に関する相談
- *退院支援・在宅支援
- *アスベストによる肺がん・中皮腫の相談
- *HTLV-1関連疾患であるATLの相談
- *患者会活動に対する支援
- *紹介・逆紹介の返書管理
- *患者さん等からのご意見・苦情などの対応

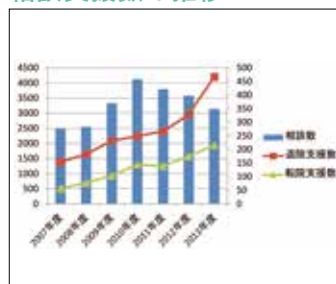
予約業務

- *FAXによる紹介患者予約
- *セカンドオピニオン外来
- *PET-CT検査
- *在宅医療連携外来

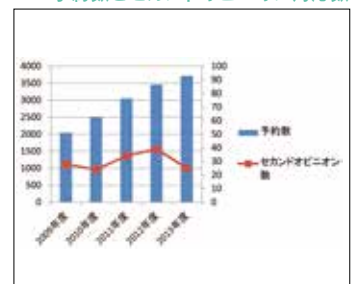
返書管理

■相談実績

相談支援数の推移

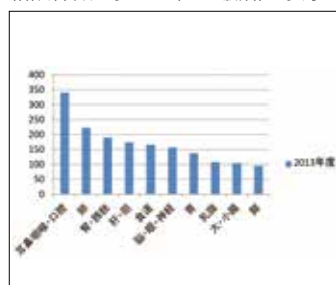


FAX予約数とセカンドオピニオン対応数



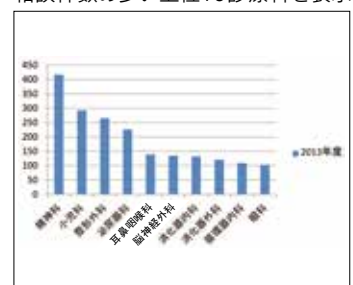
がん臓器別相談支援数

相談件数の多い上位10臓器を表示



診療科別相談支援数

相談件数の多い上位10診療科を表示



化学療法部

Division of Cancer Chemotherapy

- 連絡先…018-884-6279(外来化学療法室) 018-884-6261(医局)
- ホームページ…<http://www.med.akita-u.ac.jp/~medonco/>

スタッフ構成
 教授 — 1名
 特任助教 — 1名
 看護師 — 2名



部長
 教授 柴田 浩行
 Hiroyuki Shibata



副部長
 特任助教 井上 正広
 Masahiro Inoue



外来化学療法室担当看護師
 進藤 菜穂美
 Naomi Shindo
(がん化学療法看護認定看護師)他、看護師2名

診療内容・特色

当部門は、

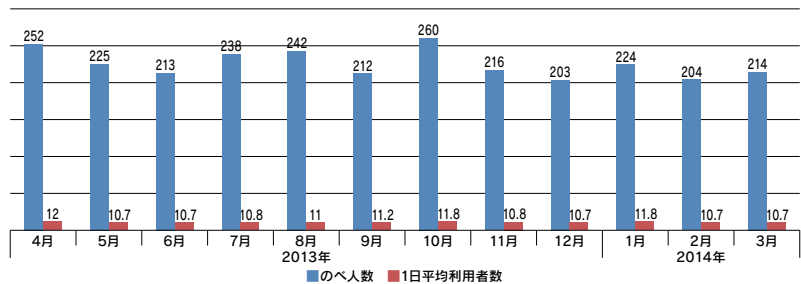
- 1) 外来化学療法室の運営
- 2) 院内の抗がん剤治療の管理を担当しています。

現在、抗がん剤治療の大半は外来で行うようになりました。これによって患者さんは長期わたる治療でも社会や家庭とのかかわりを保ちながら、外来で治療を行う事ができるようになりました。外来化学療法には多くのスタッフ関わっています。そこには直接、患者さんの目には触れないスタッフもいます。

まず、治療のメニュー(プロトコル)は最新のものに書き加えられています。このプロトコルは委員会審議、承認されてから病院のコンピュータに登録されます。患者さんごとの適切な投与量はコンピュータが指示し、治療に関わる全スタッフ(医師、薬剤師、看護師、事務員)が目を通し、確認します。外来化学療法は病棟と同等以上のスタッフが支えています。

このように外来化学療法は最適性、妥当性、安全性などが幾重にも検証された上で、患者さんの利便性にも配慮がなされています。

2013年度 外来化学療法室稼働状況



年	稼働日数	全科	診療科目																	
			消化器内科	呼吸器内科	血液内科	リウマチ科	消化器外科	乳腺外科	食道外科	呼吸器外科	泌尿器科	脳神経外科	放射線科	耳鼻咽喉科	眼科	皮膚科	神経内科	緩和ケア	腫瘍内科	
2013	4月	21	252	21	23	15	51	40	33	5	7	6	0	0	2	2	1	0	0	46
	5月	21	225	18	19	14	44	40	27	6	8	7	0	0	1	2	1	0	0	38
	6月	20	213	17	18	11	44	40	25	5	7	7	0	0	1	1	2	0	0	35
	7月	22	238	18	19	21	46	40	30	4	8	15	2	0	1	2	0	0	0	32
	8月	22	242	11	25	22	48	44	34	1	11	8	7	0	1	1	2	1	1	25
	9月	19	212	12	20	18	31	43	32	0	9	7	7	0	1	2	0	1	1	28
	10月	22	260	19	29	28	42	47	32	0	11	10	8	1	1	2	2	0	2	26
	11月	20	216	9	20	18	33	43	34	0	10	10	2	1	2	0	0	1	1	30
	12月	19	203	19	23	16	28	38	22	2	13	10	1	0	1	2	2	0	1	27
	2014	1月	19	224	18	30	31	30	45	26	2	8	8	0	0	0	1	2	0	23
		2月	19	204	19	26	18	26	34	33	1	9	8	1	0	0	2	1	0	26
		3月	20	214	16	21	26	27	38	32	3	13	8	2	0	0	1	1	2	23
合計		2,703	197	273	238	450	492	360	29	114	104	30	2	11	17	13	7	7	359	

2012年度は、全科合計2,594件→1年で109件の増加



外来化学療法室では「がん患者さんの変わらぬ日常生活」を応援します。

緩和ケアセンター

Palliative Care Center

- 連絡先…018-884-6223(緩和ケアセンター相談室)
- ホームページ…<http://www.hos.akita-u.ac.jp/kanwa/index.html>

スタッフ構成	医師	11名	
	歯科医師	1名	
	看護師	5名	
	薬剤師	4名	
	臨床心理士	1名	
	社会福祉士	1名	
	管理栄養士	2名	
	事務職	4名	
	<small>(精神科医師2名・日本緩和医療学会指病医1名・がん専門看護師1名・緩和ケア認定看護師1名)</small>		



センター長
教授 安藤 秀明
Hideaki Andoh



副センター長
高橋 裕哉
Yuya Takahashi



緩和ケア認定看護師
三浦 京子
Kyoko Miura



看護師
阿部 トミ子
Tomiko Abe



■診療内容・特色

当センターでは、患者さんやご家族の、がん疾患のみならず、病気や治療に伴う身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな痛みに関わって活動しています。大学病院は、専門性が高い診療が多く、より専門的な取り組みが必要とされています。入院事例に関しては、専従看護師を中心に、身体所見のアセスメントのみならず、患者様の自律性と価値観を尊重した対応を心掛けております。緩和ケア外来は、専任看護師を中心に、患者のみならず家族の思いも尊重できるような体制を目指しています。

2013年度からは、治療開始前から関わらせて頂く事例が増えてきており、主治医・病棟スタッフと連携を図りながら、治療の副作用に対する症状緩和や患者さん・ご家族の揺れ動く気持ちを支え、早期からの緩和ケアを実践しております。また、外来では、リンパ浮腫の診断・指導も開始しました。



■取り扱う主な内容

- 2013年度実績：年間総依頼件数 83件(1事例に複数依頼内容を含む)
疼痛 56例、疼痛以外の身体症状 23例、精神症状 36例、家族ケア 5例、地域連携・退院支援 1例、その他 1例
- 緩和ケア外来：年間新患総数 25例
リンパ浮腫 16例、疼痛 4例、精神的支援 4例、その他 2例

■診療実績：転帰

自宅退院 25例、転院 17例(ホスピス 9例)、継続 9例、当院での看取り 32例

心療センター

Psychosomatic Division

- 連絡先…018-884-1111(病院代表) 2627(内線)
- ホームページ…http://www.hos.akita-u.ac.jp/cdtf/cocoro_center.html

スタッフ
構成

センター長—1名
(精神科講師)



センター長

講師 増田 豊

Yutaka Masuda

■診療内容・特色

当センターの医学的独自性は「認知行動学的論理に基づき愁訴の分析、診断、加療を行う」ところにあります。いわば「病という呪いを解く」といった風情ですが、これは医療技術の一つであっていわゆるカウンセリングではありません。治療対象は身体病変によらない適応障害一般です。適応障害の呪いは不安、抑うつ、身体表現障害といった形で表現されますが、当センターではこの呪いによる不快な症状を緩和すべく薬物しばしば漢方を処方します。尚、上記の理由により紹介のない新患については総合診療部と連携しています。

■取り扱う主な疾患

身体病変によらない適応障害一般、すなわち心身症、神経症、不定愁訴など。

■診療実績(2013年度)

- ・新患総数 97名(月平均 8名)
- ・再来総数 2,724名(月平均 227名)

肝疾患相談センター

Liver Disease Consultation Center

●連絡先…018-884-6297

●ホームページ…<http://www.hos.akita-u.ac.jp/liverdsscenter.html>

スタッフ構成
センター長(准教授) — 1名
センター員(特任講師) — 1名
管理栄養士 — 1名
事務職員 — 1名



センター長
准教授 後藤 隆
Takashi Goto



特任講師 三浦 光一
Kouichi Miura



管理栄養士
齊藤 美保子
Mihoko Saito

■活動内容

肝疾患相談センターの大きな役割は、肝疾患患者さん、肝炎ウイルスキャリアーの方々、及びそのご家族の電話相談を行うことです。また、肝疾患に関する情報の収集を行い、それを患者さんやその家族、医療従事者に広く提供しています。年に数回、肝疾患をテーマとした講演会『秋田肝臓大学』を継続的に開催し、肝疾患の基礎知識や最新治療を提供しています。さらに県内各地で開催される市民公開講座において、最新の肝疾患に関する話題を提供しています。

(1)受付及び相談体制について

電話相談について (直通)018-884-6297

受 付 月曜日～金曜日 8:30～16:30

※お電話をいただいた方に折り返し肝臓専門医よりお電話を差し上げ、相談に対応しています。

(2)相談件数(2013年度)

電話相談……………10件

(3)申請書類作成

B型慢性肝炎…核酸アナログ…新規申請……………15件
更新申請……………56件

C型慢性肝炎…3剤併用療法……………8件

インターフェロン新規治療……………2件

インターフェロン治療延長新申請…0件

原発性胆汁性肝硬変…新規申請……………2件

更新申請……………34件

(4)秋田肝臓大学の記録

●第19回秋田肝臓大学

日時:平成25年6月29日(土曜日) 10時から

講演1 B型肝炎 最新の話

秋田大学消化器内科 金 田 遼

消化器内科病棟 看護師 八 代 由起子

講演2 生活習慣病と肝臓病

秋田大学消化器内科 三 浦 光 一

●20回秋田肝臓大学

日時:平成25年11月16日(土曜日) 10時から

講演1 食べ物に潜む肝炎

秋田大学消化器内科 酒 井 利 隆

講演2 自己免疫性肝炎と原発性胆汁性肝硬変

秋田大学消化器内科 道 免 孝 洋

講演3 肝硬変と栄養管理

消化器内科病棟 看護師 佐 越 祐 二

●第21回秋田肝臓大学

日時:平成26年3月15日(土曜日) 10時から

講演1 肝臓の検査あれこれ

秋田大学消化器内科 杉 本 侑 孝

講演2 C型肝炎最新の治療

秋田大学消化器内科 大 嶋 重 敏

(5)市民公開講座への参加

市民公開講座『肝がんの予防と治療』2013年7月13日in秋田

後 藤 隆「B型肝炎治療の最前線」



秋田県における肝炎診療ネットワーク

栄養管理部

Division of Nutrition Management

●連絡先…018-884-6050

スタッフ構成
 教授 — 1名 (患者給食委託業者従業員)
 准教授 — 1名 管理栄養士 — 5名
 管理栄養士 — 6名 栄養士 — 25名
 調理師 — 13名
 調理員 — 23名



部長(糖尿病・内分泌科、老年内科)
 教授 山田 祐一郎
 Yuichiro Yamada



副部長(糖尿病・内分泌科、老年内科)
 准教授 成田 琢磨
 Takuma Narita



栄養士長 主任栄養士 管理栄養士
 中山 真紀 若松 麻衣子 齊藤 美保子
 Maki Nakayama Maiko Wakamatsu Mihoko Saito

管理栄養士 管理栄養士 管理栄養士
 柳田 仁子 山田 竜也 渡邊 麻未
 Satoko Yanagida Tatsuya Yamada Mami Watanabe

■活動内容・特色

栄養管理部は、フードサービスとクリニカルサービスを連携させてマネジメントすることで、治療効果の向上を図ることを目的として活動しています。安全で満足度の高い治療食の提供や栄養指導による治療効果の向上、合併症予防、ひいては生命予後及びQOLの改善につながる取り組みを行っています。

フードサービス

入院患者さんの食事を管理・運営しており、選択食や患者さんの病態に応じた献立形態、季節感溢れるメニューの提供を心がけています。また「大量調理施設衛生管理マニュアル」を基本とし、衛生的で安全な食事の提供に努めています。

クリニカルサービス

栄養管理計画書にて栄養管理が必要な患者さんのスクリーニング・アセスメントを行っています。特に栄養障害を有する患者さんに対し、多職種で栄養状態の評価、必要栄養量の算出、補給形態を検討・管理し栄養状態の改善を図っていくNST(栄養サポートチーム)を組織し、活動しています。栄養療法のコンサルトや提案を行い、栄養面から治療向上の支援をし、褥瘡対策チームや感染対策チームとも連携して取り組んでいます。外来・入院患者さんに対しては、医師の指示に基づきそれぞれの病態に合わせた個別指導を行っています。

その他

日本静脈経腸栄養学会認定のNST認定教育施設として、実地研修生を受け入れています。また、NST研修会を年6回開催し、知識の習得や院内外スタッフへの情報提供を行っています。県内外の栄養士・管理栄養士養成施設校より実習生の受け入れを行っています。患者さん、職員を対象とした情報誌「えいよう」を毎月1回発行しています。

入院・外来栄養指導

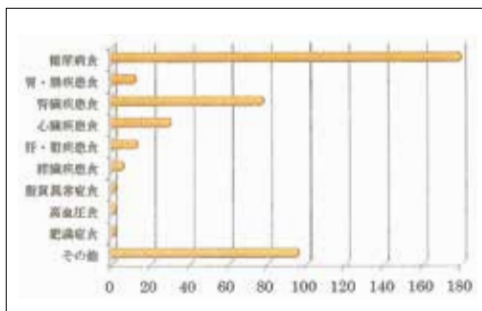
実施日	月～金曜日
時間	9:00～16:00

チーム医療

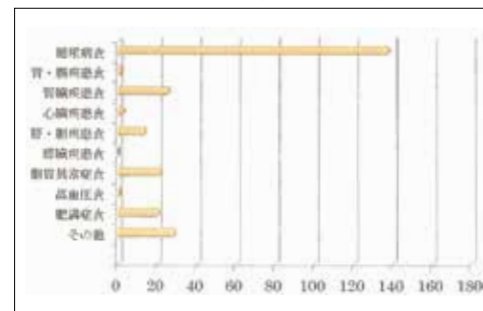
活動内容	実施日
NSTカンファレンス・回診	随時
NST担当者会議	奇数月/最終月曜日
NST研修会	偶数月/最終月曜日
褥瘡回診	毎週火曜日
糖尿病・内分泌代謝科カンファレンス	毎週水曜日
血液内科カンファレンス	

■栄養指導件数・NST介入件数

入院栄養食事指導件数(2013年度)



外来栄養食事指導件数(2013年度)



NST介入件数

年度	件数
2009年度	17
2010年度	24
2011年度	35
2012年度	27
2013年度	52

腎疾患先端医療センター

Center for Kidney Disease and Transplantation

●連絡先…018-884-6259(医局)

スタッフ構成
 センター長 — 1名
 副センター長(特任職) — 1名
 特任助教 — 1名
 技術系補佐員 — 1名
 事務系補佐員 — 1名



センター長
 教授 佐藤 滋
 Shigeru Satoh



副センター長
 特任准教授 奥山 慎
 Shin Okuyama



特任助教 藤山 信弘
 Nobuhiro Fujiyama



診療内容・特色

現在わが国で透析を受けている患者は30万人を超えました。透析医療が進歩した背景もありますが、原因となる慢性腎臓病(CKD)患者が年々増加していることも確かです。秋田県は超高齢化社会になりつつあります。そして高齢者の慢性腎臓病患者も増えていくことが予想されます。事実、2011年には秋田県の腎不全死亡率は男性5位、女性1位となりました。秋田県においては、慢性腎臓病の予防、早期発見、治療、そして腎代替療法までトータルな対策が急務であると言えます。

当センターは、2013年4月1日に秋田県の委託事業として開設されました。その主な主旨は以下の通りです。

1. 主たる末期腎不全原因疾患(糖尿病性腎症、慢性糸球体腎炎、腎硬化症)の発症予防、進展予防対策の啓発活動
2. 初期腎臓病の発見、治療、慢性腎不全への進展予防の多科共同事業
3. 適切な腎代替療法を選択できる社会構築のための啓発活動と代替医療の実践
4. 生活の質改善と慢性腎不全の死亡率低下を目的とした腎移植の普及啓発と実践
5. 献腎移植普及のための臓器提供の啓発活動

慢性腎臓病の治療方針決定に重要な腎生検は、当院では8,000例にわたる蓄積があり、個々の患者に対してテーラーメイドの治療を提案しています。また、慢性糸球体腎炎の代表であるIgA腎症に対して秋田大学式マンスリーパルス療法を行い、良好な治療成績を取っています(図1)。

腎移植は、末期腎不全に対する腎代替療法として最良の選択肢と考えられます。当院では年間20例以上の腎移植を行っており(図2)、東北圏内では1位、県人口あたりおよび腎不全患者数あたりの移植数は愛媛県に次いで全国2位です。

当センターは、腎臓内科と泌尿器科を結ぶ鑿(かすがい)となり、外科系・内科系・研究部部門等から人材を得て、慢性腎臓病の予防から早期発見、治療、そして透析と腎移植まで、「腎疾患のトータルマネジメント」を掲げ、全国に先駆けた取り組みを推進いたします。

図1

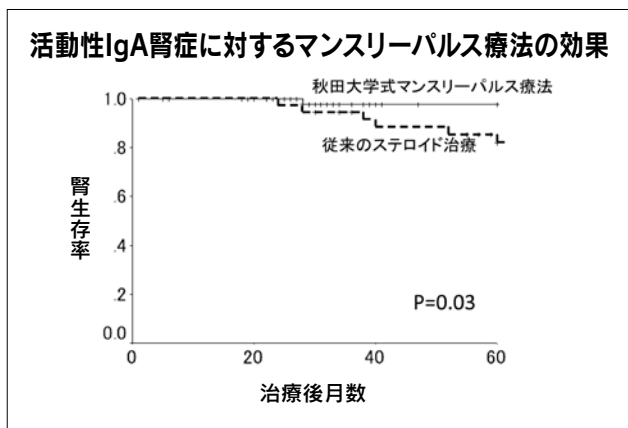


図2



医療安全管理部

Division of Medical Security and Patient Safety

●連絡先…018-884-6222 (TEL・FAX)

●ホームページ…http://www.hos.akita-u.ac.jp/cdtf/iryous_ankenkanri.html

スタッフ構成
 部長(教授) — 1名
 副部長・GRM(准教授) — 1名
 GRM(看護師長) — 1名
 GRM(薬剤部主任) — 1名
 副看護師長 — 1名
 事務職員 — 1名



部長
教授 寺田 幸弘
Yukihiro Terada



副部長・GRM
准教授 小坂 俊光
Toshimitsu Kosaka



GRM・看護師長
加賀谷 晶子
Shoko Kagaya



GRM・薬剤部主任
庄司 学
Manabu Syoji



副看護師長
森屋 みゆき
Miyuki Moriya



事務職員
鈴木 綾美
Ayami Suzuki

■特色

医学と医療の分野はめざましい勢いで進歩しており、日本の医療はまさしく世界の最先端を走っていると言っても過言ではありません。一方、安全な医療を行うシステムという点においては、欧米諸国に比べ日本は遅れていると言わざるを得ません。一つの医療事故はこれまで積み重ねてきた信頼を打ち消してしまうだけでなく、患者さん、ご家族、そして事故の当事者(医療従事者)にも大きな苦しみを与えます。当部門は、医療事故などの防止と患者さんの安全性を確保するために、2001年5月に医療安全管理室として発足し、2009年4月に医療安全管理部へ名称が変更され現在に至っております。当院では組織横断的に病院全体の医療安全管理を行うことを目指し、2010年2月からは医師General Risk Manager (GRM)が配置され、重大な医療事故につながりやすい医師の診療領域においても、迅速かつ適確な対応を努めております。また、インシデントの約半数は薬剤に関連した事例であることから、2012年4月からは、全国的にも数少ない薬剤師GRMも配置されております。スタッフ一丸となって、医療事故を最小限にとどめるシステム作りや教育活動を行うことで、当院の医療安全が高いレベルに維持されるよう、日々取り組んでおります。

■活動内容

医療安全管理部では各部門のリスクマネジャーと協力して、医療安全の確保と医療の質の向上を図るために以下の業務を行っております。

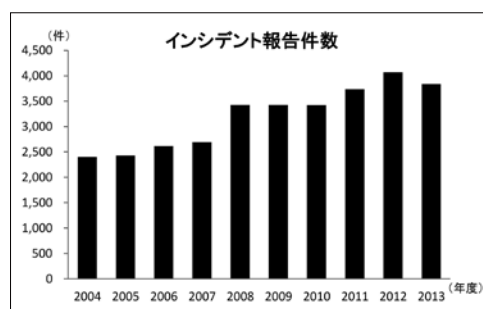
1. 医療安全管理のための指導や職員研修の企画・開催
2. 医療安全対策マニュアルの作成・周知・見直し
3. 病院各部門の巡回、医療安全対策の実施状況の把握
4. インシデント報告の調査・分析・改善策の立案
5. 医療安全管理部担当者会議、リスクマネジャー会議の運営
6. 診療記録・看護記録の記載確認や必要に応じた指導
7. 患者さんやご家族への説明など、事故への対応の指導



研修会の様子

■診療実績

1. 年間約4,000件のインシデント報告を収集・分析(図)
2. 全職員を対象に院内研修会を年5回以上企画・開催(写真)
3. 安全管理に対する職員への周知及び意識の啓発のため、毎月「医療安全ニュース」を発行
4. 2013年度は11件の事例を、医療安全管理部担当者会議で検討



年度	件数	
H16	2004	2,402
H17	2005	2,429
H18	2006	2,613
H19	2007	2,691
H20	2008	3,426
H21	2009	3,424
H22	2010	3,420
H23	2011	3,735
H24	2012	4,071
H25	2013	3,839

感染制御部

Division of Infection Control and Prevention

- 連絡先…018-884-6248(感染制御部)
- ホームページ…<http://www.hos.akita-u.ac.jp/ict/index.html>

スタッフ構成
部長 1名
副部長 1名
看護部長(認定看護師) 1名
医師 2名
看護師 1名
事務員 1名



部長
教授 廣川 誠
Makoto Hirokawa



副部長
特任准教授 奥山 慎
Shin Okuyama



看護師長・感染管理認定看護師
中村 美央
Mio Nakamura



看護師
渡辺 恵美
Emi Watanabe



感染制御部医師
准教授 植木 重治
Shigeharu Ueki



感染制御部医師
助教 面川 歩
Ayumi Omokawa

■業務内容・特色

近年、MRSAや多剤耐性緑膿菌など様々な病原体による院内感染事例が世界中で増えています。感染制御部は、これらの院内感染を防ぐための活動をしています。実働隊である感染制御チーム(ICT)には、感染制御医(ICD)、感染制御看護師(ICN)、感染制御認定薬剤師(JSHP)、臨床検査技師、事務職員を含めており、多職種が連携して病院の感染対策を行っています。

我々は、検出された耐性菌、注意を要する血液培養分離菌の状況を毎週確認するとともに、抗菌薬の適正使用についてもチェックしています。現場に向いて担当者と協議を行い、随時コンサルテーションの依頼に応じています。また、院内感染対策マニュアルの見直しや改訂を進め、職員のスキルアップを目的とした院内感染対策講習会も年5回開催しております。

さらに、感染対策のネットワークを強化するため、2010年からAkita-ReNICSの運用を開始しました。このシステムにより、県内の医療機関から30万件を超える細菌検査データベースが作成され、インターネットを介した情報共有と統計解析が可能となっています。

■取り扱う主な疾患

- ・感染経路別の代表的疾患
- 空気感染疾患: 結核、麻疹、水痘、播種性帯状疱疹
- 飛沫感染: インフルエンザ、風疹など
- 接触感染: 耐性菌(MRSA、MDRP、ESBLs、VREなど)、疥癬など
- ・その他、ウイルス・細菌・真菌等による感染症全般

■診療実績(2013年度)

感染症診療に関するコンサルト: 約150件
感染拡大防止に関するコンサルト: 約500件
ICTラウンド: 年間50回

薬剤部

Department of Pharmacy

- 連絡先…018-884-6309(薬剤部投薬窓口)
- ホームページ…<http://di.hos.akita-u.ac.jp/index.html>(薬剤部)

スタッフ構成
 教授・薬剤部長 — 1名
 講師・副薬剤部長 — 1名
 副薬剤部長 — 2名
 薬剤師 — 21名
 非薬剤師 — 11名



薬剤部長
 教授 三浦 昌朋
 Masatomo Miura



副薬剤部長
 講師 新岡 文典
 Takenori Niio

■業務内容・特色

薬剤部の業務は多岐にわたり、総勢36名の薬剤部員(うち薬剤師25名)が、9つの部門を分担し業務を遂行しております。また、医学・薬学教育に加え、研究にも積極的に関わっています。業務部門は、調剤室、薬品管理室、薬務室、製剤室、試験室、治験薬管理室、薬品情報室、持参薬管理室および服薬指導推進室から成り立っています。さらに、手術場に1名の薬剤師をサテライト配置し、医療安全、感染制御、緩和ケア、栄養サポート、糖尿病教室、褥瘡対策などの各チームにも薬剤師を配置しております。近年、薬剤師の専門化が進む中で、我々は患者さんに対して最高のPharmaceutical Careの実践を目指しております。医療スタッフへの医薬品適正使用の啓発、医薬品安全情報の提供を行う一方で、薬剤管理指導業務において、患者さんの服薬サポートを行い、QOLを向上させることを目標に日々努力しています。薬学部6年制課程の2.5カ月長期実務実習における薬学生教育、専門薬剤師の育成など、現在、我々病院薬剤師に求められるものは、業務・研究・教育のバランスであり、我々は、こうしたバランスのとれた薬剤師を日々目指しています。



薬物血中濃度測定機器



抗癌剤調製用安全キャビネット



入院時持参薬確認ブース

■取り扱う主な業務

- 調剤業務: 内用や外用薬の調剤、医薬品相互作用等の処方監査
- 注射剤供給業務: 注射薬の供給、注射薬配合変化等の処方監査
- 製剤業務: 院内製剤の調製や高カロリーリ輸液・抗がん剤等の無菌調製
- 医薬品管理業務: 当院採用薬品の購入や在庫の適正管理
- 薬剤管理指導業務: 入院患者さんへの服薬指導や持参薬管理
- 薬品情報業務: 医薬品適正使用に関する情報収集や提供
- 試験研究業務: 薬物血中濃度測定と投与设计支援
- 治験薬管理業務: 治験薬管理とコーディネーター業務等

■業務実績(2013年度)

調剤業務関連	外来処方せん枚数(院内)	14,960 枚
	院外処方せん発行率	90.5 %
	入院処方せん枚数	112,310 枚
	疑義照会件数(入院・外来合計)	463 件
製剤業務関連	処方変更率	0.36 %
	入院注射薬処方せん枚数	167,258 枚
	外来注射薬処方せん枚数	26,178 枚
	一般院内製剤調製件数	164 件
	無菌院内製剤調製件数	350 件
	T P N 等調製件数	5,315 件
薬剤管理指導業務関連	抗がん剤調製件数(入院)	4,168 件
	抗がん剤調製件数(外来)	2,763 件
	薬剤管理指導実施患者数	4,699 名
	保険請求件数	8,636 件
	麻薬指導加算件数	56 件
	持参薬管理指導件数	4,890 件
	薬物血中濃度モニタリング関連	薬物血中濃度測定件数

看護部

Division of Nursing

- 連絡先…018-884-6318(看護部管理室)
- ホームページ…<http://www.hos.akita-u.ac.jp/kango/>

スタッフ構成
看護部長 — 1名
副看護部長 — 4名
看護師長 — 24名
副看護師長 — 60名
看護師・助産師 — 556名
看護補助者 — 51名



看護部長

白川 秀子

Hideko Shirakawa



副看護部長

鈴木 節子

Setsuko Suzuki



副看護部長

大塚 悦子

Etsuko Otsuka



副看護部長

今野 笑子

Emiko Konno



副看護部長

小松 順子

Junko Komatsu

特徴

看護部は、院内で最も多くの職員が所属している部門です。病院には多くの専門職がいるなかで、24時間患者さんを見守っている看護師は、常に患者さんの視点に立って看護ケアを提供するように心がけています。助産師外来では、産後1ヶ月検診を助産師が行っています。助産師が担当することで、産後の悩みや相談に時間をかけて対応することができ、褥婦さんに喜ばれています。看護師が主に活動している組織横断的チームとしては、褥瘡対策チーム、緩和ケアチームがあります。褥瘡対策チームでは皮膚・排泄ケア認定看護師が褥瘡の適切な処置や治療を支援しています。緩和ケアチームでは、緩和ケア認定看護師が、患者さんらしい生き方や望む治療について、患者さんや病棟スタッフと共に考え活動しています。外来化学療法室には、がん化学療法認定看護師が専従で勤務し、がん患者さんが苦痛なく治療を受けて頂けるような支援をしています。さらに、がん看護専門看護師が、対応の難しいがん患者さんやご家族・医療スタッフへのコンサルテーションを開始し、専門性を発揮し支援しています。専門看護師1名、認定看護師8名がおり、秋田県では最も多い数です。看護部内だけでなく院内多職種の研修や現場の指導、院外の研修の講師として幅広く活躍しています。その他にも、医療安全管理部、感染制御部、相談支援センター、医療情報部、治験管理センターに専従の看護師を配置し、多職種のコーディネーター役としてチーム医療の推進に努めています。



2014年度看護師長会



シミュレーション研修



手洗い・PPE実技演習



新人研修

病院駐車場・交通機関案内



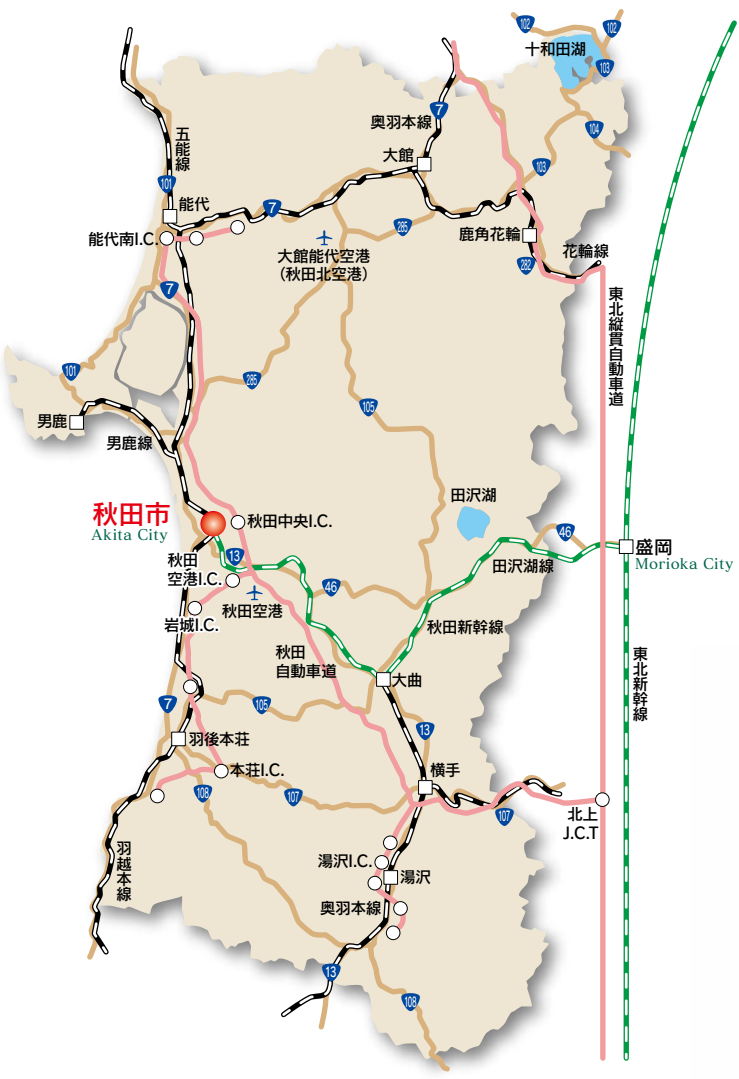
秋田中央交通バスをご利用の場合

- 手形山経由大学病院 秋田駅西口 ⑫ 番線 → 手形山団地 → 大学病院前
- 赤沼、太平、松崎団地、各線 秋田駅西口 ⑪ 番線 → 三吉神社前 → 谷内佐渡 → 大学病院前
- 駅東線 秋田駅東口 ① 番線 → 北光寮 → 南団地 → 大学病院前
- 赤沼線 秋田駅東口 ② 番線 → 碓 → 南団地 → 大学病院前

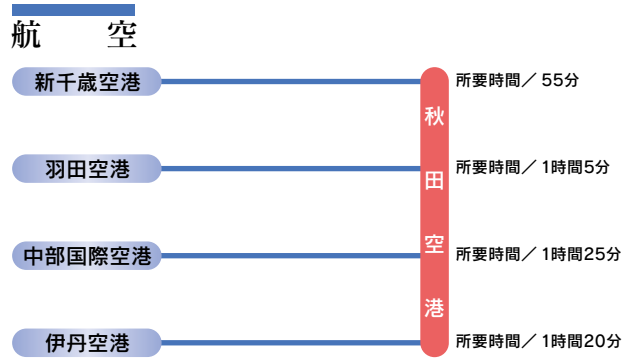
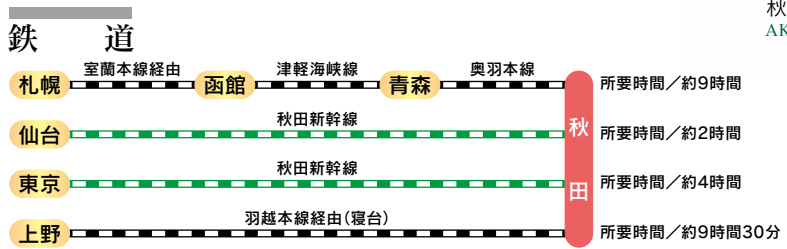


病院駐車場・交通機関案内

病院駐車場・交通機関案内



秋田新幹線「スーパーこまち」
AKITA Shinkansen "Super Komachi"





編集／発行

秋田大学医学部附属病院広報委員会 平成26年11月